

野津原方言集

平成18年(2006年)

8



野津原方言集 続編No.8

表紙画……………松本英明  
題字……………姫野順子  
カット……………那須政子

★ ご協力いただいた皆様

岡本政雄《野津原》。川西哲男《呉市》。安達延子《大分市》。  
寺司勝次郎《大分市》。斎藤きみえ《野津原》。  
佐藤武正《野津原》。秦野千里《大分市》。幸野**廣**《中津川市》。  
高橋直記《大分市》。後藤秋生《大分市》。酒井次郎《大分市》。  
大分市立のつはる少年自然の家。野津原地区公民館。

★ 利用させていただいた資料

七瀬の里の『いわれと伝説』  
文化財調査こぼればなし  
野津原歴史記録会資料  
野津原文化協会演劇部資料  
野津原読み聞かせ会資料

平成18年10月吉日《通算16号》

870 = 1221 大分市大字高原 野津原方言調査会  
☎ 097 = 589 = 2807  
870 = 1203 事務局…大分市大字野津原  
☎ 097 = 588 = 0092

はじめに

野津原方言集の 続編No.8《通算16》が ご愛読者の皆様がたのご支援によりまして 完成いたしました。方言単語もちりばめた 全頁にわたる かつての生活用語の方言。素人集団が16年あまり取り組んだ 野津原方言集ですが 今回からは 五助街道物語の中に 『味』の思い出も加わりました。

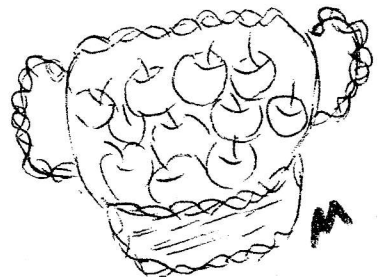
ここには古くからの食文化が 取り上げられて現在でも 大切に命の糧として食膳を 和ませてくれています。前回に続いて『昔の農作業』…7月から12月編。子供の世界には『読み聞かせ』から民話。五助のあげな話こげな話には ほんのり情を醸し出す 伝承物語。歴史に関わる場面は 街道の恵良のあちこち展望。こほれ話の中には 笑ったり涙こぼしたり 怒ったりの人生双六が 織りなす故郷文化を そっと香らせてみました。

県外からの愛読者からは 『古くて新しく面白い冊子』と 好評をいただいて ほのぼの読んでくださる まだ見ぬ顔に感涙して思わず 情愛と好奇心を湧かせています。

調査会では今後も余暇を利用して 調査収拾編集製本を続け さらに発行を続ける予定にしています。皆様がたのご支援ご協力の程を お願い申し上げます。今年も皆様には よりよい年でありますよう 心よりご祈念申し上げます。

平成18年10月吉日

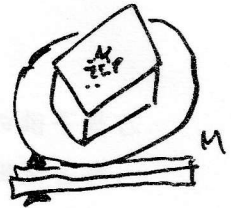
はじめに……………	2	古い唄新しい歌……………	5 7
もくじ……………	3	田植え唄……………	5 8
昔ん農作業 7月……………	5	亥の子唄……………	5 9
8月……………	8	神楽ばやし……………	6 0
9月……………	1 0	七瀬馬子唄……………	6 0
1 0月……………	1 2	田植え唄……………	6 5
1 1月……………	1 4	粃すり唄……………	6 6
1 2月……………	1 6	民話、伝承……………	6 7
方言子供の世界……………	1 9	野津原ん民話、伝承……………	6 8
鬼と天狗の知恵くらべ……………	2 0	区役、苦役、公役……………	6 9
ばあちゃんのお使い……………	2 2	1 6 羅漢……………	7 3
お接待の意味……………	2 4	人間の弱さ小さな蚊に……………	7 4
お接待こぼればなし……………	2 5	毘沙門祭りケンチン汁……………	7 5
笑いごっちゃねえで……………	2 6	ちよいと一服……………	7 7
それぞれんよさがある……………	2 8	ちっとしめち……………	8 2
五助あげな話こげな話……………	3 1	格言……………	8 3
いっぺんさせなァ……………	3 2	こぼればなし……………	8 6
怖いもん見たさ……………	3 5	小作人ぬこなした報い……………	8 7
ギックリ腰んご褒美……………	3 7	いっぺん食べちみてえ……………	8 9
痒ゆうじたまらん……………	4 0	千願心経……………	9 0
方言単語から……………	4 1	トピックス……………	9 3
五助街道物語『味』……………	4 7	方言カルタ……………	9 6
ビッチョあれこれ……………	4 9	湯つけうどん……………	9 8
粉米餅、すり粉餅……………	5 1	伝言板……………	1 0 0
そしち餡ころ……………	5 2		
一合雑炊の妙味……………	5 3		
コガシ、ハツタイ粉……………	5 4		
ほうかぶり餅……………	5 5		
あの味噌こん味噌……………	5 6		



通算16冊目の『続編No.8』が完成しました。前回の後編になる『昔ん農作業』7月から12月までが入りました。先人の苦勞が滲む農家の姿も浮き彫りにされます。子供の世界では『読み聞かせシリーズ』から6編。五助さんの面白おかしい話は馬子歌にダブルさせて聞こえてくるようです。

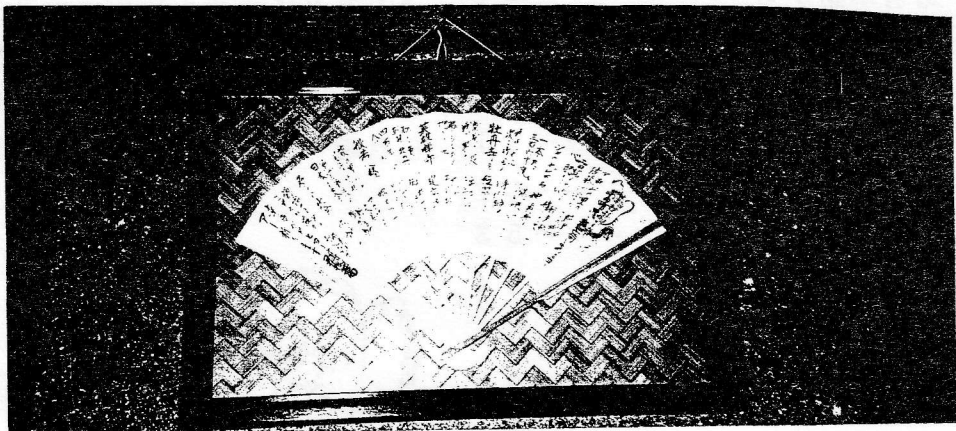
方言単語から幾つか再登場して 慣れ親しんだ無意識に使う言葉が もう愛読者の皆さんもピンとくるでしょう。

今回から新顔の『味』おふくろの味と言えそう。なんでも無いような食材を生かして 先人の知恵が情愛とともに包みこまれている。衣食住に恵まれた現在の食生活からは 想像もつかぬような物が 今も生きているのも日本人の心に しっかり溶けこんでいるからでしょう。



古い唄新しい歌には素朴な中に 人情がある生活の声でもありません。伝承、民話には 今回は恵良地区に残るいくつかを。こぼればなしでは 人のいきざまには 誠があってこそ生きられる。そんな優しい心が生きて行く事には 大切でもあると思い知らされもします。

会員も5人が余暇に継続して 古い生活用語調査に取り組んでいます。ご支援ご愛読誠に有り難うございます。



# 普以農作 集



昔の農作業…… 7月編

田の草取りも早え家じゃ2回目 畑草取りも昼まじん暑うねえ  
うちやらかす。イロイタ畑じゃ草を引き抜く時 そこらん埃も立て  
ち汗ん流れた顔う ほどゆう汚しちくるる。昼寝した後あこんだ田  
の中 水ん中じちった暑いなーコラエラルルが 牛蠅がどうかすり  
や飛んじきち それかるがオオゴト。背中うムスズシチ時にや泥  
んついた手じ 追い回す。年寄りしゃ竹ん皮を拾いに山に いい按  
配に乾いたぬコゼアツメち けっくしゃいい『ヒユウ』になる。

キョウチクトウ、ダリヤ、アサガオ、こげな花が咲きやいこしち  
ツボ先ゃ賑わしい。七夕を書くち朝方サトイモン葉ん露ん玉 ゴロ  
ゴロ転がすと水銀んごたる美しい水。じわっと茶碗に取っち帰ると  
えーと起けた弟が『おれにもくんない』ち 甘えたないいが夕べ  
寝小便したんか 隠しち後ろさがり出ち来る。

女ごしん『ふとんぜんたく』にゃ 優しい男しん心くばりじ暑い  
時 ちっとぜん影べらじ仕事うさせて一んじゃろう。昼寝する時で  
ん汗まみれじ糊つけしち 張り板に干すと真夏にゃすぐ乾く。小昼  
食わんな…起こされた頃あちっと影が長うなっち 昼からん仕事に  
やいい時間になる。ビリビヤキ、ユデモチ、決まりきったもんじゃ  
がやっぱ 懐かしいな一愛情がこめられちよるきか。

ばっかりくい…なすびならなすびばかり、カンランならカンラ  
ンばかり…それでん食わるるだけでん幸せ。死なんじ生きちよる  
なそれじいいんじゃろう。親から子に孫に続いちよる 百姓ん食い  
もんしゃそれなりに 工面したり健康と栄養と考えた 昔かるん生  
活ん知恵も兼ね備えちよるき。それも理屈が通るもん。

山ん下刈りに行っちよつた若者が アケビうふと一なこつ ぶら  
さげち帰って来た。適当な甘さもある瑞々しい自然の果物。輝く。

とにかく一番暑い盛りじ 夜明けが早えき『昼寝』が健康維持にも 欠かせん健康法でんある。寝ゴザ敷いち『腹どま冷やすな』親父らしいこつ一誰聞くとんね一言う。めいめい決まった場所じ横になりゃ ゆうしたもんじ寝息も聞こゆる。若い娘たちん居る家じゃ母親が バンツん紐にチョマンよりあわせたぬ入れ まあ安心ぬするごたる。

それでん気になるんか早めに起くると クドんはて一しゃがみくうじもう 『火焼き』ん小昼ん準備。女ごた一働くこち一執念ぬかけちもう。うす目じ見た親父がそん頼もしい横顔い 『こいさはりこもうか』ち 自分に言い聞かせよる。若え娘が寝ちよる隠居部屋ん外じ 口笛がしよる。

じわっと起きで一た娘が目をこすりながら チラッと見ると頬かぶのした青年。今朝草きりん時『昼間行くき』 そん言葉ん通り来たないが頬かぶりじゃ 暑くるしかろうち小走りに裏に回った。青年も気がち一たんかすぐ木戸口出ると 今朝ん続きか話しよる。親父も知らんふりしち寝返りゅうつと 『ゆう寝ちよかにゃ』ち。

ホーズキ、ヒデリソウ、カンナ、ケイト、アサガオ 夏ん花が暑いさなかに咲いちよるんも 自分たちん子孫ぬ残すため。手じあたると種がはじけち飛ぶトビシャク。子供んままごと遊びにゆう出るカンナ。シソにくるくる巻いち……もうふんと子供にゃ優雅ん世界が見られた。

『もう目がさめたんな』『う一ん青年ないんだんか』『まあおりゃせん』『茶を飲むごつ言やいい』 親父が気に入ちよるんか茶を奨むるなんか まんだらでんね一ごたる。『和子 寄るごつ言やいいに 小屋くいな一』『……』 さすがに娘は黙ちよる。もう親も許しちよるんか 親父も気に入ちよるんじゃろう。若えふたりは百姓にしちや 幸せもんじゃろう。





昔の農作業… 8月編

旧盆の月に入り外ん仕事ん田の草取り トイモン草取りも一段落すりゃ 男しん馬屋肥だし これにゃ布団洗たくしよった娘たちも出る。なしや……これにゃ訳があっちの 馬屋ん肥出ししち手にちいてん 手がスベスベしちもう柔らけーこと。男しん荒え手に握られた時 どうくれ一点数稼ぐこつか。

暑そよけち家ん中じ母親とする 布団洗たくもいいけど馬屋ん肥だしにゃ こげな妙味もあったんじゃ。盆踊りん帰り道じっと握りしめた そん手の艶かしいわ柔らかさにゃ もう最高ん幸せも約束もさるるごたる。提灯やらローソクやら準備しち 13日にゃ迎え火をたくがコエマツ堀りゃ 年寄りん仕事になる。

小米うすっちきな粉ん香りがすりゃ もう盆の晴れ着が娘たちにゃ 心浮かせち夢がロマンが開花もする。ヤセウマ ハナツマミダング ソーメン 来客にゃ盆の定食。新盆の家に挨拶まわりに『静かなお盆で 寂しい事でしょう』 決まりきった挨拶が人の心を情愛じ包み情けの輪が広がる。

ウンスケじあげた焼酎がふるまわれ ヤセウマがへぎに盛られち運ばるる。せせろしい蚊を追いながら暑かった昼間の話かる 今年ん稲の出来 嫁じょうが『ゆう働くき』笑顔がこぼれ 里ん両親に聞かせて一ち内緒じ料理する姿はもう こん家ん者いなちしもうたごたる。じゃき皆んなふーいいんかん知れん。

ハスイモ キュウリモミ お決まりの料理でん フロー豆ん仲間いりん盆にゃ 日ごろんくたびるる仕事たー ちごうた心ん和みもある。仕事着た一ちごうた衣ずれん浴衣 なんとゆう似合う娘たちが 薄化粧すりゃ親も目を細めち 『俺ん子かのう』ち目かどう迷うごつ嬉しいもん。

墓掃除や花筒う切るなゝ年寄りん仕事。竹時がいいからちこん頃ぬ使ゃ 丈夫じ長持ちもする。いつんなかめ一かそげな常識と知恵がち一た 博学にもなっち若えしに話すと 『おいさんな物知りじゃな一』ち 喜ばるる。まんだら悪くもね一き『まゝ食えの』ち 昨日ん残りか『ヒヤキ』が出ち来た。

ツボ先にゃホウセンカ、ヒマワリ、が咲き揃うた。口説き踊りがあるぬ 青年しが練習しよるき 夕飯食うたあと見に行くと 笑顔ふうゆう間違えたりしち 踊りよる。若え頃う思いで一たんか唄を歌いて一んか モジモジしよるぬ見つけた団長が 『お前がん口説き聞きてえが 唄うちくれんな』ち 誘い水向けた。

踊りん晩な近所ん子どもも 集まった大けな輪が出来た。新盆の家を回っち『供養踊り』 受け継がれち心んこもった踊りにゃ 人ん情愛が垣間見らるる。それが下手でんオカシウデン 人の気持ちの通い合う時 そこにゃ物や金じゃ変えられん真心が。そげな田舎ん素朴な風習が受け継がれち 一夜の休憩時間にゃドブロクも。

柱松にゃ古くかる里人が同じ思いの 送り火を一緒にすると言う心の絆の行事。貧富の殻お脱ぎ捨てち皆が同じ 送り火にした名残りん現れ。コエマツに火をつけち投げあぐると シヤ入るとやんがち火が周りに燃え盛り 火の粉がチラホラ舞いおつる。げにも盆の送り火でんある 心の絆の素朴な行事。

影にゃ若者ん出会いもありゃ 嫁に行っちはじめち帰った盆歩きん いかにか故郷がいいんかが 改めち見直さるる盆の送り火。在所歩きん子連れも思いで多い 盆踊りやら柱松なんかに ついうっとりすると昔ん友達なんかも集まる。話が弾んじチュウカンが 着物着ち飛び回るごたる 盆の夜。



昔の農作業… 9月編

昔かる二百十日とか 二百二十日とか言う『ほらシケが来る』  
ち もうふんと稲が折角ゆう出来たに……また寝ちしもった。一緒  
懸命に作ったになし今頃になっち 吹かにゃ悪いんかのう。水が少  
ねーと雨がなし降らんのか むしむしすりゃ…なし風んやたー吹か  
んのか……そんなときまっち言うんが『風と按摩は10時かる』

朝露にびっしょり濡れち 朝草切りかる帰った オカチャンがん  
乳にしがみつくごつしち 5つになつたにーまゝ飲みよる。むげね  
ーないが歯が悪うなるち心配するな ちった焼き餅かん知れん。  
ツユクサ、シビトグサ、ヘチマ、オシロイバナ、そしちヒガンバナ  
が ちっと枯れ始めた土手にまっ赤。

秋祭りん太鼓が森んお宮かる聞かる。祇園まつりゃ昔に疫病が  
どこんここん はやっち困った挙句にまつた。ひょいとすりゃ坊  
さんが修行に出ち持ち帰った そげえ言うとむげねーけんど 今ん  
ごつ医学も薬も貴重品の頃にゃ 神や仏ん出番になっちご利益を  
頼りにしちよつた人間の弱さもあつた。

『ちっと早えけんど焼き米う取ったき 食べんな』 隣んばあさ  
んが腰う曲げたにー後ろ手にしち 持っち来る。お互いに珍しい物  
が行き来する人生 ツツロク人生たーゆうつけたもん。俵編みん時  
小縄を巻きつけち交互に 藁を挟んでアングコンゲする道具。人ん  
心が優しゅうじ豊かじゃき そげんことも出来る。

十五夜ん月明かりに手蓑に乗せた 掘り立てんトイモ ドイモ  
栗 柿 枝豆 一升升にいれたぬー こそつと行っちゃサゲチ帰る  
。子供がはやる気持ちじ……そりゃ知らんふりしち見ち 又乗せ変  
える若い嫁さんの笑顔が なんとん言えん美しい場面を作ちよる  
。じゃき故郷はいんじゃろうな 苦勞もあるけんど。

セリの白い花が満開になっち 湧水ん中に手をつくと冬ん近づくぬ感ずる。15夜ん後にゃ20日が『立ち待ち月』 21日『居待ち月』 そしち22日は『寝待ち月』ち 言うそうな。窓越しん月う見ながら 冷えくーじきた秋ん深まりん これかるん仕事あせわしゅうなっち来る。

秋野菜ん種まきも彼岸の中日ごろあいい。昔かるん知恵が生きちよるんが懐かしい。『ぼちぼちブク出しちよかにゃ 子供い風邪う引かすど』 ちいさんがん声に『ちゃんとしちよるき』 ばあさんすかさず奥かる 待ちよつたち言わんばかりに……。じゃき家んなかはいつも笑顔が交差しちよる。

ムシロ、カマゲ『つくろうち取り入れに間にあわせにゃのや』 いつ見てんじとしちよらんもんじゃき 『せせろしい』ち言うけんど さあいるごちなると 馬屋んつし行きゃなんでん 行儀ゆうちゃんと揃うち作ちやる。口もさかしいが手も足も動かすもんじゃき まるじ機械んごたるち皆んなが言う。

気の早えしが炭焼きうはじめちら 『俺かたんもちっと入れらせなあ』『いんど やんかた早めに入るりゃいい 子が出来るじゃろう』『そうじゃ どうやら男ん子んごたる あん顔がのう』『どつでん さかしゅ生まにゃの』『おおきに ほんな頼むき』『いとん』

早えしが溝刈りうはじめち『焼き米』う ついたち紙袋にいれちもっちきた。『やんかた 早えのー』 自慢げな顔が出来がいいんか 嬉しそうにこぼれた。百姓はいつもせわしいが そんなにゃこげな暖かな言葉が飛びかい 皆が相手を心配しながら 支え合いの生活が 自然の中じ流れち行く。秋が忍びよち すぐ忙しい取り入れになるけど 四季んうつろいがあるなあ 又楽しい日々でんある。



昔の農作業…10月

運動会シーズンに柿がうるる。栗もハジケチそこにじゅうに飛び散ったぬー 両方ん脚じフンバッチ押しつくと クルット実が飛び出る。チョコがぐあゆー挟まっちゃうき 動かん石垣と同じごつ 締め上げちゃう。焼き米うち一たき食わんな…隣んしが持つち来たなーやっぱ嬉しいもん。

山ん鬼ゆり、カンネンカズラン花、カラスコベ、ナデシコ オミナエシ どん一つ見てん秋が真っ盛り。露がつめと一脚にまかりついたないが ヒヤッとしちどこんここん縮みあがる。早うして一なんか言うてんダマシ出来るかのや。夜明けがおすーなったき寝過ごしゃ もう他んしは一輪ぐれーひょうしゃも一切る。上荷に揺るるナデシコン花 ええらしムゲネーごたる。

『もうそろそろよだつかなあ』『熟れたごたるのー 鎌入れするか 今年しゃ豊作かん知れんのう』『ならいいが 見かけ倒しじゃ都合が悪いが』『しよわねーき縹子ん帯でも買ちゃらにゃ』…そげな話が弾むのんどうやらしい年んごたる。ばあさんが喜かうじ腰うタゴカサニヤイガ。『あんまり使い過ぐるとろくなこたーねーきのや』 畦越しん話やもうトッパゴローんじょう。

といも堀しよると子守が乳飲ませに来た。『あーひじー腹がへったに』『と芋があったじゃろうが』『兄やんが食うちしもうち』『なにや ひとめんやっじゃのー ほんな夕飯う早うせにゃヒダリカロウ だんごじる炊いちょきゃいい』 いつもの夕飯じゃけんど家族が 元気じみんなじ食う夕飯は 幸せそのもんでんある。

貧しゅうでん心まじ貧しゅなんなや 物や金は回りもんじゃきいつか来た時や捕まゆりゃいい。元気しちょりゃいい事もあるきのう。それがいつじゃろうか…でんこげな話が楽しい百姓。

こん頃かる日が短こうなっち 夜が長えもんじゃき『夜なべ仕事期間』になる。百姓は仕事たすりゃキリガネー、せにゃせんでんずられんこた一ねえ。じゃき貧なもんとブゲンシャん差が出るちゅ訳。まあとにかく働く虫になりゃこす 苦にもならんしけっくや楽しいもんち言う。物う作り出す そりゅう真っ先食う これが最高ん幸せじゃねー どげーな。

泥坊主になってん汚れさげーちよつてん 祭りん日にゃ在所歩きん日にゃ 見違ゆる程ん拵えたんが上品。見かけこそ田舎くせーがきりり糺子ん帯締めち 白足袋ん先がキラキラまばいい。

『あしなか』を作る側じ『草履作り』を習う嫁ご。利口もんじゃろう ぢいさんぬ透かすごつ習うに まんだらでんねーんじゃろう。『うちん嫁は』 た一格段に上か下 ここじゃさしずめ上ん段。『うちん嫁も』じや人並みん扱い 『うちん嫁は字を書かせてんソロバンぬハジカセテン もう俺も一目置くがのう。

縄ないをさすりゃ手際がいいし 炊事させてんどんこんねーうまい。ただ器量がのや ちよいと鼻え引っかかるごたる。贅沢言わんの昔かる 『女ごは愛敬ち言うじゃろう そりーやんが調子ゆう使うき なかなかゆう出来ちよるのう』『なにや 何かゆうたんか』秋風が身に染む頃になっち シノウガたった今来る。

溝かりしち焼き米つきゃ ムシロ干しんシコーもせにゃならん。秋野菜ん取った後ち冬野菜が種まき 亥の子、道普請…こりゃちよいと貧なもんの入湯。鍬ん柄が折るるごつツッパッチ しかとしもねえ話かる段々下がっち 尻話になる頃にゃ『もうやむるかのう』年寄りんクワエタバコン 火が回るごつ動くと 入湯も終わる。

若いしたちが気を利かせち どこかじセンギしたごつ作った餅う配ると 『若えにゆう気がつくのう どんこん嫁ごか』



霜がおれたんかまっ白い朝 早えしが稲刈りう始めた。『たまり  
がいいごたるのう』『それほどでんねーが』こりゃ決まり文句じ  
刈った稲穂は重てえごたる。『のさんか ツーゴシが痛うなるど』  
『へよ そのなかめーやんが刈るんじゃろう おろいい奴じゃのう  
ふんと』喧嘩仲間じゃき灰汁はねーが 聞いちよると まるで仲  
ん悪い隣同志んごたる』『ぼちぼちやれや 済んだら入湯に湯の平  
え連れちいくき』

ムシロ干しがはじまると年寄りも忙しい。子守かたじ食う世話か  
る洗たくもんのだい出し入れかる 尻う搔く暇もねーごたる。夜な  
べしちよつたき 縄も間におーちカマゲに入れた粉が ぐわゆー口  
う締め上げちよる。道具が仕事ん半分ちいうぐれーじゃき 伊達じ  
ゃなかった夜なべ すんだら次んよなべは 婿じょうな。

月初めにゃ立冬になる。いよいよ冬に入る季節じ夜明けも遅うな  
り 寒さも加わっち霜柱おガシガシ踏んじ 稲刈りしたもんじゃ。  
サザンカ、ツバキが咲き始めキクが香りいい。道普請しちよつたき  
野うーせも楽に出来る。田のクロじ子供が焚き火しよる側じ 乳飲  
ません子供がダツタンカ 座りくーじしもうた。

秋祭りやらシノウやら忙しい日が続いち 稲刈りがえーと済む頃  
にゃもう冬將軍がやっち来る。ブクを着た子供はいいけど 足先  
きん破れ草履かる冷え切った泥がべったり。それでん働かにゃ食う  
に困る百姓。そげな苦勞が大人になっち実るち思ゃ腹もたつめー。  
やんがち米すりが来るき縄ないが 俵づくりがもうせせろしゅなる  
。これが百姓ん地獄入りとん言うが いつも辛い仕事に甘んじて  
はたらく人たちん報いは いつどこにどげな形じあるんじゃろう。

宿命にしちゃあんまりアゴギネーケンド サカシュ働くな  
おまあ幸せかん知れんし どこまでも続くごたるが。



昔ん農作業… 11月

稲かりが進んじ霜がおれはじむる。田植えん時ち一た足跡んくぼみにゃ 薄氷も張っちよることもある。ワリワリ踏み割っち鋸鎌じシャクシャク。ゾー腰ん痛えぬこらえち 隣んしにゃ負けと一ねえき。夜なべぐれわ辛抱しち 張りこんじよきゃ又いいことんある。今年しゃ穂が重てえごたるき タマリがよかろうのや。

椿、さざんか、花が咲くと赤いナンテンの実が なんか語りかけちくるごたる。北西ん風は冷てえけんど 乾きがいいなゝ藁がゆう乾く。稲刈りが済みゝ藁すぐり 縄ない 俵編み 百姓はいっ時もよこいがねーが じゃき『百姓』とん言う。自分じ作っちそりゅう食えるるんも 幸せかん知れん元気さえよけりゃな。

地主ん家が早めにち一た餅う 亥の子餅にしち子供にくるる。心が通い合うき小作も真剣作る。土地も荒れんじ小作も食えるる そこに相互扶助ん関わりが育つもん。『あっこな一うめえで』 子供ん心は目は正直なもん もらった餅を兄弟姉妹じ分けち 腹一つ食う子供ん横顔はもう 親にしちみりゃ悦びこん上ねえ。

秋ん野菜が食わるるごつなつた 麦植えんシコーもせにゃ忙しゅうなる。粃干しするぬー『アセリカヤス』ち 年寄りん仕事じ毎日筵を 寄せたり返したりすることじ 粃も干上がっち年末にゃ米すりなる。ハヤトウリが葉ん落ちた柿ん木に 巻き上がっちブラリブラリ。初冬ん風物詩が深まる農村を 醸し出しちよる。

鼻たれん子供が袖口じおしぬぐーうち 一緒懸命に遊びまわるんなゝ元気な証拠。じゃき親もほたらかしちよつてん 安心しち自分かたん仕事が出来る。隣近所がみんなじ気をかけち 何かあるとみんなじ見、聞き、心くばりゅうしち 守り合うんが農村でんある。じやき年寄りも子供も心が 豊かでんあるごたる…何はのうでん。



『夜なべ』にゃ青年しは 藁すぐりがある。若いしが集まってち  
回りこに家家を 順番にすぐって回る。それが又青年にしちみりゃ  
楽しみ。そこかるロマン夢も仄かに育ち 結ばるる事もゆうある。  
『こいさ俺かたじゃつたのや』『悪いんか』『いんにゃ頼むど』  
昼よこい頃に辻じ打合せするな 団長格ん若いし。

順番がくるしは本目があるき ちっと気を使いよるごたる。相手  
ん娘も気を利かせち早めに こそと打合せしょつたごたる。『ほ  
んなこいさは甘汁炊いちょこうかな』『そげーする』 もう夫婦気  
どりん二人 息もおうち相談もきまったごたる。とんだ藁すぐりに  
発展した刺激が 他しんしにも勇気づくる。

かぼちゃ、ぜんまい が入った『小屋』に出たもんじゃき 『ふ  
んところんしゃ物たぼいがいいな ち 評判がたった。『こんだ  
作り道う教えな ち 』 こんでん技法が広がち行く。じゃき心ん  
ふれあい広いと地区が 賑やか華やかみんなん笑顔が 広がち  
も行く。困った時ん遠くん親戚よりゃ 近くん他人とん言う。

霜月…霜がおりはじめち 朝はまっ白い稲刈り後ん田にゃ もう  
麦植えもはじまった。粉肥に混ぜた麦が品ゆう撒かれ 鍬じつぶし  
ながら株散らしもする。巧みに操る鍬が宙に右左に動く。そんたん  
びについた土が落とされち 株がふわっと飛んじ溝に。初冬ん絵に  
なる空間が自然の中じ 描きだされちいる。

季節んうつろいん中じ今年も残り少ねえが そげな12月があり  
ゃこす 人間の生活が楽しい仕事によち 回転しちよるんかん。  
四季んある故郷にやり返さるる 生活ん中に自然がちゃんと 心  
を豊かにしちくるる素材があり 人ん生き方ん教えも貰ゆる幸せ。  
じゃき苦勞があつてん巖しい 現実ん毎日でん楽しい気持ちじ 過  
せるんかん知れない。幸せた一心の中にこそあるもん いのちきん  
物や金以上の 大事な宝物かも知れないち思うが。

12月ん農作業 そしち今年も暮る

百姓ん暇ん時お自分じ作るしかねーんが めーにちんイノチキでんあった。秋祭りがすんじ稲刈りうする頃にゃ もう霜柱があつたり早え所じゃい雪も降りよった。夏んシケじコンノン荒らされち『サザメモ難しい』ち 親父お頭痛八巻きじ田のくろを 回ちるなお稲ん出来う見ちまわる。

穂が垂れたんぬじっと下かる 持ち上ぐるとズシッと手に重てえと 何か無性に嬉しゅなっち タッタ今飛うじ帰っちヤウチ言う。飯食い茶碗ぬ置くや早えか 皆んなづり一田んくろに行き 垂れた稲うかむぎあげち涙が 流れちくるぬ拭うオカン。ちいさまも目に涙浮かべち『おおきにおおきに』 心じゃもう泣きよる。

それでん取り上げち米すりゅうしち 俵につめち小作米じ納めちえーと『ゆう出来た、いい年じゃつた』ち 荷がおれたち喜ぶんが百姓ん宿命か。『縹子ん帯買うてな』『任せちよけ』 そげなトハズ言いよったけど 本当はカカに帯ん一本も買うちゃりてえ。がちいさん ばあさんがん 肌着ん一枚でん買うちゃらにゃ 年寄りも冬が寒かろう。

籾干しが始まり麦植えもハカドル。チラチラ粉雪が舞うと風でん乾くき 米すりん番がもうち来る。俵う編んじ繩をこすり夜なべが続くと 若い嫁ごどま楽しみお預けになる。寒い晩に抱きおうち後がなからにゃ これもムゲネーガちよいと辛抱しよ。正月にゃ在所帰りゅしち母じょうに甘え 婿じょうとゆっくり楽しみおのう。

『甘酒飲みなあ』 隣んおぼんが気をきかせち 声をかけちくる。冷え切った手足が痛えぐれ一寒うなっち 今年もあとチットーニナッタ。こげ一苦勞するた思わんじゃつたが 好きじ来たきもう仕方おねーんかち 諦めも上手になつたんじゃが。

『どげーな ちった寒いにも慣れたな』『寒いな 苦にならんが  
こげーひじいたー知らんじゃつた』 無理もねえこっじゃ 土ん泥  
でんヒビワレになり 風がテンショムシヨ顔を 横なぐりすりゃ肌  
も荒れちしまう。若いにムゲネコサレ。ソゲー言うばあさんもゆう  
こん年まじ しんぼうしち来たもんじゃ。

『あー美味しかった おご馳走になりました』『もちっとどげー  
な』『おおきに 又よばるるわ そりー婿じょうも寒いき』『ふん  
とゆう気がつくなー 婿じょうに聞かせてーなあ』『まゝ』 そん  
言葉がヨッポズ嬉しかったんか 顔がほんのり赤うなったな 甘酒  
だけじゃねえごたる。若いーいいもんじゃな。

こげーしち我慢しち頑張りやんがち 土にまみれた百姓女になる  
んじやろうが 物を作り出すそん仕事はやっぱ 大事な事である  
こたー作っちみち 自分じ育てた物ん素晴らしさかる 自信も感触  
も人にゃ言えん喜びがあつたごたる。百姓にゃ言い知れん苦勞は  
悩みはあるけんど それ以上ん嬉しさ喜びもあるのも 事実である。  
じゃき慣れ親しむ年月ん中じ 好きになり止められない天職に  
も なっち行くんじやろう。

たしかに汚い辛い時間が長い仕事 じゃけん自分の考え力かる  
物をつくりだす楽しさは関わちこす 解る妙味かん知れんちし  
みじみ納得もする。物やら金やらじ買えん心ん喜び これは体験し  
ちこす解る特殊な物かん知れん。厳しい現実ん世界じ脈々と続く  
農家ん仕事にゃ計画制を 取り入るる事じ 近代的ん生活楽しい物  
造ん楽しさも 満喫出来るんじやあるめーか。

ほら見よ可愛い双葉ん芽 朝露にしっぽり濡れち ニッコリ笑う  
そん笑顔にゃ 憎めん喜びと夢がひろがるごたる。



## 方言子供の世界

方言調査収集の際に 古くからの民話、  
伝承、語り伝えなどから 小学生向けの  
『読み聞かせ』にした ものです。

No 6 には 忘れたお弁当。猿の恩返し。  
辻のお地蔵さん。祭りのみやげ の4編。

No 7 には おにぎり。テマリコとデンデ  
ン虫。ままごと。ダンゴ汁 の4編。

今回は 鬼と天狗の名勝負。おばあちゃ  
んのお使い。お接待にはどんな意味。笑い  
ごとじゃねーで。それぞれのよさがある人  
生。の5編が入っています。



## 鬼と天狗の知恵比べ

山の村を荒らして困る鬼に 天狗が手をやいて考えました。この鬼は酒が好きだから『酒を飲ませる事でいたずらをやめさせよう』と考えました。

ある日ちょうど出会った鬼に言いました。

お前の好きな酒を毎日飲ませるから 水の被害が多くて困る村の山に 100本の谷を3日間に掘ってほしい。と。

しばらく考えていた鬼は これはいい話だ しめしめとその話に乗りました。

天狗はうまくいったと思いましたが もし約束が出来たらどうしよう……と少し不安にもなりました。

早速始めた鬼は 1日目に50本を作りました。こりゃやるわいと 天狗はびっくりしました。が 3日間には無理だろうと 思うと感心したように びっくりして見せました。

鬼は頑張りました それもそのはず 大好きな酒が毎日飲めるもう頭の中は そんな夢がいっぱいでした。

2日目には少し疲れたのか 40本が掘れました。これで何本になったかな そう90本です あと約束には10本です。

天狗はさすがに吃驚しました。あと10本 鬼はすぐ掘ってしまうだろうと 天狗はあわてました。そして3日目になりました。天狗はすぐニワトリを呼び集めました。

鬼が掘ってしまうと ニワトリたちもさらわれるかしのれないので 早起き鳥はしばらく鳴かないように 天狗の話に皆は 賛成してその日は昼になっても ニワトリが鳴かないので 鬼は気持ちよく眠っていました。

うとうと夜になり目を覚まし 『まだ夜はあけないのか ますこし眠るか』 と

鬼はぐっすり眠ったので 夜のあけない内に目がさめました。  
『そうだ 今の内に仕事をして 100本にしないと』

鬼は約束  
の100本に残り10本の仕事に とりかかり いよいよ5本が  
残りました。

『ここまでくれば出来たもおなじ ちょっと休憩』  
と岩に腰を下ろしてあくびしました。大きなあけた口に蜂が来て  
あくびに吸い込まれたものだから あわててひと針チクリ……

その痛さは飛び上がりになって さこらを駆け巡りました。折角  
掘った谷は壊れ 山の中を駆け回れば 蜂はさらにチクリ チク  
リ……痛さに転げ回る鬼。

そんな格好を見ていた天狗は ニワトリを呼び集めて 一緒に  
鳴かせました。コケコーロ コケコーロ 夜があけたどー……

今まで痛さに転げ回っていた鬼も 仕事との事も忘れて夜明け  
が来たのに 二度びっくり 約束が果たせぬまま 退散してしま  
いました。

天狗はほっとしたものの それは優しいから かわいそうにも  
なって 鬼を呼びました。鬼は『油断して寝過ごした事、酒ほし  
さに無理な事ばかりしていた愚かさが解った事、蜂がさしたのも  
相手を思いやる気持ちがなかった事、自分は強くて何でも出来る  
と自惚れていた事』など 反省する事が多かったと 頭をさげた  
。

天狗もその心改めた 気持ちに同情して 90本ほった苦勞に  
酒を渡したが 鬼は断わって 『これから修行の旅に出ます』と  
みんなに迷惑かけた お詫びして山をくだった。その姿に皆は  
『又帰っておいで』 鬼も手をふって姿が小さくなりました。  
鬼はそれからとうとう帰ってこなかったそうです。

今も胡麻鶴

周辺に谷が多いのは名残りとか……

学校から帰ったら すぐカバンや荷物を ほーりだすと奥に寝ている おばあちゃんに声をかけた。『5時まで遊びに行ってくるよ…何か買ってくる物ない』 奥で寝ている おばあちゃんは もう長いこと不自由なからだ。だから用足しのほかは いつも奥で寝ている時間が多いが 子供が学校から帰る頃には 必ず返事をしして 用事がある時は頼んでいる。

お父さんも お母さんも 仕事にでているので 昼間はほとんど奥で寝ているが 孫の足音がすると ほっと安心する。おばあちゃんでもあった。『今日は用事はないが 隣のおばちゃんが おやつにと何か持って来てくれたよ』『解った じゃ 行ってくるね』と言ったあと 『おばあちゃん 大丈夫』と 一言付け加えた。

5時になると『ただ今』と 元気よくかえて来た。奥の部屋を覗くと 『おばあちゃん さみしくなかった』と 目をくるくるさせながら見つめた。『元気よ お利口に遊んだね 口ゆすいで手を洗って 隣のおばちゃんのおやつ食べたら』『そうしょうか おばあちゃんも食べない』 隣のおばちゃんがくれた おやつを取りに茶の間に行く。

元気に素直に 動き回る子供に おばあちゃんは目を細めて 本当にうれしそう。茶の間から紙に包んだ となりのおばちゃんのおやつ…『うわーうれしい ドーナツ ほら見てこれ』 こげ茶色に白い砂糖がまぶしてある。『あら おいしそう…おなかすいたでしょう おあがり』『うん これ おばあちゃんにあげる』『いいよ あんた 食べなさい』 『おばあちゃんと 一緒に食べるのがいいよ』『そう』 少し起き上がろうとしたので 横から支えて起こすと うれしそうに 甘えるように おばあちゃんも起きた。心が通い合うような 温もりが二人に伝わりました。

『おいしかったね』『よかったなーとなりの おばちゃんにあってら お礼言わないとね』『うん』

夕ごはんの準備をするのか 台所からよい匂いがしてきます。奥の部屋の おばあちゃんも 一日が終わるのかと思うと 寝た日が続く毎日が辛い事もありました。でも 孫がとても気がつくのに 優しくしてもらう事で とても毎日が有難いと感謝していました。『さあ夕ごはんにしましょうか』 お母さんがそう言うと 『僕がおばちゃんの持って行くよ』 と手伝いをします。

おばあちゃんも そんな手伝いをする 孫の優しい加勢がとても好きで まるで心まちしているようでした。人の優しさは言葉や動作もあるけれど 心が何よりと思います。病気の おばあちゃんを いつも心配しながら見守る そんな心くばりが 病人にはどれほど嬉しい事か。

『おばあちゃん 夕ごはんよ』『ありがとう』 目に涙がこぼれおちそうな おばあちゃん。よちよち運んでくるその態度 その心の中にある思いやり 年を取り病気で気が弱くなっている今のおばあちゃんには どれだけ嬉しい事か。抱きしめたい気持ちを表すように 『いつもご免ね 早く元気になって 皆と一緒に食べるように ならないとね』『いいんだよ しんばいしなくても 僕が運んであげるから……ねーお母さん』と 後ろから来た母親に尋ねるように振り向いた。

学校から帰ったある日のこと 『ただいま 5時まで遊びに行くけど買って帰るものはない』 おばあちゃんに声をかけた。『買い物してきてね』『いいよ 何』『角のお店で便箋買ってきてくれる？はいこれ便箋500円と 残りはお小遣いあげるから』『いいよ』『いいから欲しいものがあれば 買いなさい』『じゃアイス買ってもいい』『いいよ好きなら』『やったー』 嬉しそうな足音がだんだん遠くまで聞こえました。



お接待にはどんな意味があるのか

4月21日〈昔は旧暦3月21日〉は 『お接待』の行事が各地で催されます。☞地区によっては3月21日の所もあります☜

昔〈774 = 835年〉の偉いお坊さんの 遺言を今も大切に伝えて『あまねくほどこし』をする 春と夏の風物詩です。

そのお坊さんの名前は…弘法大師と言われる とても地質や気象にくわしく 又若い時に中国に渡って〈遣唐使として804年〉長安と言う町の青竜寺で密教と言う 仏の道の勉強をして806年に帰って 真言宗を広めました。816年に高野山に金剛<sup>いんぎょう</sup>峰寺を開き 多くの人たちの心のより所となりました。

大師は…人から習った 聞いた 貰った事は 全て多くの人に お返ししてこそ 生きていた証がある。と 世の中の仕組みや生活のあれこれ 食べることの感謝 人との巡り合わせに 自分も支えられている 生きてるのはあらゆる物と 生かされている幸せの賜物と お返しする責任もある。と説かれています。

いくら多くの財産が 金が 贅沢な物や資格 肩書きがあってもそれは ほんの僅かな人生の 宇宙からの借り物に過ぎないのです。人間がこの世を去れば それらは全て無意味な 欲望の固まりにしか過ぎないのです。むしろ醜い争いの種にもなります。だから 困った人にほどこしは お互いに譲り合う優しい心 支えあう連帯の気持ちで 幸せな人生は送れるものなのです。

4月21日〈旧暦3月21日〉は 弘法大師の命日とされています。この日にお接待をして お互いが分かち合い感謝する 心を培うようになったのです。頂くものが何であっても 感謝して受ける素直な心 気持ちが一番大切であり それが教えを残した 大師の意志と思います。

## 野津原のお接待行事 こぼればなし

春のお接待時期は 若い筍、わらび、ぜんまい、サンショウ、などが出はじめます。農作業も麦が熟れ 田植え準備、お茶摘みなど忙しい季節を迎えます。雨の日も多くなります。

そんな時期に皆が集まって 大師のお祭りでもある『お接待』をして 楽しい時間を過ごせる 感謝の気持ちを味わうのも 人間の本来の姿ではないでしょうか。

米を持ち寄り 季節の山菜と 腕自慢のお年寄りが 得意の食べ物を作る。若いお嫁さんたちが 見ながら習いながら 覚えて次の機会には挑戦する。隣近所の結びつきが 生活を支えあい助け合う中で 遠い親戚より近くの他人が 頼りがいも信頼も出来る 美風が育ち守れるのです。

お年寄りが孫の手をひいて 貰いにくる。大師に手を合わせて参ると もみじのような手を真似して合わせる。意味が解らなくてもその 動作や態度が 仏に感謝する心の表現にもなりました。

『ハイお接待<sup>ア</sup>★グルデ』 混ぜごはん 季節の山菜にサンショの香り。背中の子供にも気をキカセテ貰える。そこには笑顔もこぼれ心も和む。人の優しさが仄かに漂い 優しい笑顔が周囲にまで広がり 改めて大師に感謝する。こんな機会に巡り会った幸せは 家で仏様に手を合わせる そんな人としての心が培われるのです。

夏の『ヤセウマ』のきな粉の香り。それらには人の心が込められ次の世代にも 受け継がれて人間本来の 生き方に結びついて行くものです。大師も人間であったが 今お接待を頂くのも人間 そして作ってくれたのも人間。みんなの心が結びつく時 そこには貧富の差はないのです。ましてや心貧しい人もいないのです。

二人の話しがひろがったのです。鉄の1キログラムと綿の1キログラムはどっちが重たいかになったのです。一郎は『同じ重さだよ』と言いますが五郎は『鉄が重たいんだから』と言い張りました。同じキログラムの重さのものですからそれが本当なのですが『それなら水に入れたら鉄が沈み綿は沈まないから考えかたでは鉄が重たいと言う五郎の言い訳も成り立ちます。

ふたりの激しく言い合いが暫く続いてとうとう喧嘩になってしまいました。喧嘩はよくない事ですが時には意見が合わないのは人間には仕方のない時の流れかも知れません。

気短い一郎はとうとう腹をたてて帰ってしまいました。考えは間違っていないのですがもう少し話を聞くとその意味の理屈も解ったのですが残念でした。五郎も『自分も言い過ぎた』と反省をしました。折角の仲良しが喧嘩して一人が先に帰るのは悲しい事ですがこれまでもこんな事がよくあり次の日にはもう忘れていくほどの仲のよい友達でもありました。

腹立ち紛れに帰った一郎も帰りながら『腹を立てて帰った』自分の事を反省もしていました。一人ぼっちになって仕方なく遊ぶのはほんとにつまらない事でした。『ドングリ遊びでもしょう』一郎は箱からドングリをだすと庭先に遊び用に掘った穴に転がすと投げました。

一人で遊ぶのは本当につまらないのです。いろいろ考えて遊んでも面白くも何ともない事でした。そして今頃五郎は何をしているのかなとふっと思い出しても見ました。五郎もやはり同じ事を考えて一郎との喧嘩を思い出していました。仲良しの友達がこんな事で一人ぼっちで遊ぶのは悲しい事です。

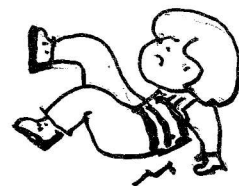
ドングリ遊びがやっと五郎の事を 忘れかけた頃のことでした。うまく転がったとおもったら 庭先の杭の穴に落ち込んでしまいました。『やった うまい』 一郎は自分でほめながら大声で笑い 杭の穴の側まで来ました。その穴は30センチくらいもある 深いあなでドングリは その中に落ち込んでいました。

『あれーこれは違う穴』 一郎が遊び用に掘った穴と違い深いので 手が入りません。じっと覗くと底に落ち込んだのが かすかにか見えます。『どうしょう』 一郎は考えましたがなかなか いい知恵が浮かびません。手は入らないし棒でも取れそうにない 暫く考えてましたが その時でした あの五郎の顔が浮かんだのです。

鉄がなで綿より重いか 同じなのに鉄が重く綿が軽い。綿が軽いのは水に浮くからだ。『五郎は やっぱ頭がいい』 ニッコリ笑った一郎。『笑い事じゃねーで』 急いで水を汲んでくると その穴に少しずつ水を入れました。……なんと水がほとんどなくなった頃 泥水の中からドングリが 浮かび上がって来たのです。

一郎は思わず大声で叫びました『やっぱ綿より鉄が重たい』 その声に吃驚したように じいさんが大声で笑いました。『笑い事じゃねーで』 一郎も負けられないように笑いました。『五郎はやっぱ頭がいい』 一郎もそれが解って本当は同じ重さでも 考え方や見方では 重くも思える事の発見が 五郎のおかげで出来たのです。

『昨日はご免な』『なんじゃったかなー』 二人は顔見合わせて笑うと 『笑い事じゃねーで』



『それぞれのよさがある人間』

『帰り道で転んで』 汚れた服の泥を落としながら 悔しそうに  
言い訳する一郎。外はまだ少し寒い日の出来事でした。『お前は  
どんなきなあ 気をつけにゃ 怪我せんじゃった』『うん 怪我は  
せんじゃった』 きまり悪そうに頭をさげ 家の中に入ったけれど  
よくよく 考えてみるとよく転んだものでした。

北風が吹くと寒いけれど そこは子供 元気よく遊んで育つもの  
でもある。棒切を持ってきた がき大将の勇太が 大きな声で皆ん  
なに 呼びかけた。『山に行く者は手をあげて』 顔見合わせて  
反対は出来ない大将の呼びかけ 皆んな手をあげ 一郎も仕方ない  
ような気持ちで 手をあげた。

『皆んな行くんじゃの ほんな行くど』 先頭に立って歩き出す  
と 途中から走りだした。先に走る者は 走りよいが後からついて  
走る者は 遅れまいと大変でもある。そんな時に本当にうまい者は  
さーっと走って先頭になると疲れしない。子供なりに 心得た者  
は すかさず先頭に走り出た。

ところが今日は がき大将が何を思ったのか 『待て 一郎お前  
一番先を行け』『…………』 一郎はびっくりして ガキ大将の顔を  
見つめた。『早ういかんか』 一郎はなで がき大将が自分を先に  
走れと言ったのか わからなかった。そして山に入った。ここまで  
くると 皆んな一休みする。

風呂焚きに使う薪物を集める 男子供の仕事の一つでもあった。  
『早う集めたら 加勢せにゃのー』『あーい』 皆んな元気に返事  
すると 枯れ枝なんかを集め始めた。がき大将はこんな 子供の世  
界のリーダーとしての役割も果たしていたのである。大人が見てい  
ると いじめのようにも見えるが 決していじめではない社会勉強  
の機会でもある。

やがてそれぞれが薪の束を集めた。がき大将をはじめ上級生が  
取った『かずら』を上手に使用して 束ねてくれるが それを任せる  
だけでなく ちゃんと側で見ている。時には束ねかたも習う事で  
自分でも出来る楽しみも味わう。そんな加勢をしあう姿を見ていて  
がき大将も遅れるような 子供があると飛んでいって加勢する。

山の中は上級生も 小さい子供も皆んなで学校以外の 勉強する  
教室であるのかも知れない。仕事をほったらかして 見つけた虫に  
真剣取り合っている子供もいた。がき大将は側によると その熱心  
に見ている子供に 『面白いかえ』 『喧嘩しよるわい』 言葉の  
やりとりに 今まで知らなかった世界の発見 虫の生き方や生活の  
仕方も勉強していた。

『のや もう ちっとぬくなったら 食べ物を運んで貯めちよる  
』 小さい子供たちは それが食べ物であった事も 取られまいと  
喧嘩する厳しい生活も 今まで知らなかった事でした。食べ物は  
自分たちで集めるのも きっと大変だろうと感心していた。人間は  
親が働くから 不自由なく食べられ 学校で勉強も 友達とも遊べ  
る。

がき大将が やかましいけれど 皆んなで遊んだり 薪もの取り  
したりして親の加勢をするのは 当たり前なことでもあったのです  
。そう気がつくときには嫌いと 腹がたったりしたけれど それは  
間違っていた事もわかりました。上級生が束ねてくれるから 家に  
帰っても親が喜んでくれる。風呂も沸くのです。

『なんか 怪我したんか』 『すりむいただけ』 『フツ揉んでつけ  
たがいいで』 誰かが言う 『そうじゃのー』 上級生があたり  
を見回す。一人が『俺がある所を知ちよる』 すぐ飛んでゆく。  
友達の怪我を心配し 皆んなで傷の手当てをしてあげる。『すぐよ  
くなるから 心配せんでもいいど』 安心して笑顔がでた。

『さあ 皆んな出来たごたるのう 帰るど 一郎お前は一番先に  
行け すぐ転ぶきのや』 がき大将は ちゃんと個性を知っている。  
『はい』 一郎は一番先に歩き出した。途中に上級生が入り列が  
山から 家に向かって動き出した。一生懸命に子供なりに働いたの  
で 寒いところが体はぼかぼかでした。

10人くらいの子供たちの列が 山を離れ里に向かう もう夕食  
の準備か どの家からも煙りが上がっていた。昔は冷蔵庫も炊飯器  
もない生活。だから食事ごとに焚いたもの 煙りが上がるのはその  
家の人たちが 元気で働いて食事の準備をしている印でもあった。  
『お前かた 煙りが出よらんど なしか』 心配して尋ねる友達  
『今日は遅くなるち言いよったき』 皆んなもほっとする。

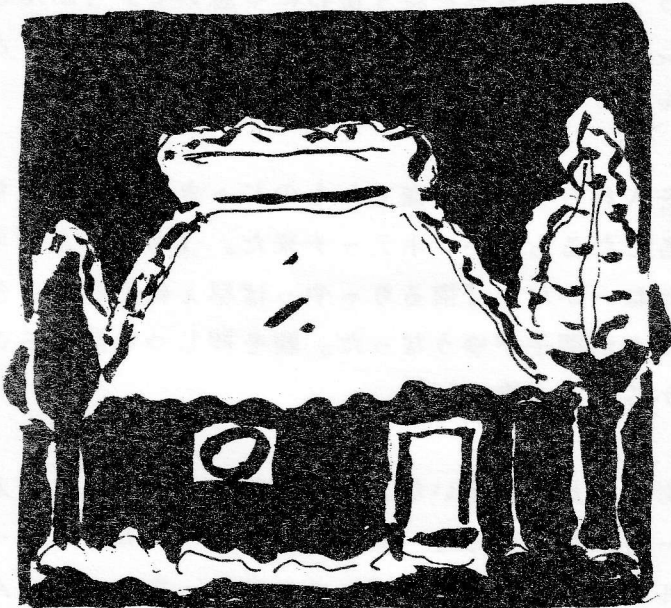
『一郎歌え』 一郎はよく転ぶけれど 歌はとても上手であった  
から がき大将は 一郎に出番を作ってやったのである。『あい』  
素直に返事すると 『春がきた でんいい』『いいとん』がき大将  
も嬉しかった。折角思ってたのに返事が悪いと どうしよう  
と 思っていたからです。でも歌い始めた声が山から里に 皆の声と共  
に流れました。"山に来 里に来た 野にも来た"。………

ゆう転ぶような子供でも それぞれのよさを持ち合わせている。  
それをよく知って皆んなが 仲よく大切にしあう気持ちを 作り出  
させる世話をする子供の世界。心が豊かであれば健康にもなる。人  
の幸せとはまず健康 そして優しい心の持ち主だろう。たった一度  
きりの人生です 有意義に生きてこそ人間でしょう。

★ 方言解説 じゃった…しなかった。どんなき…不器用だから。  
じゃの…ですね。ほんな…それなら。いかんか…行きなさい。  
かずら…山の植物の弦。ほったらかし…気ままにして。ぬく…  
暖かく。擦りむいた…すり傷。ふつ…よもぎ。なしか…なで。  
でん…でも。いいとん…いいとも。ゆう…よく。あい…はい。

五助の

あやうき話のあやうき話





五助街道物語りから 『いっぺんさせな一』

『今日は都合いい』『ふんとえ どこか行ったんな』『泊まりがき一仕事ち行ったき』『ふんな 昼かる来てんいいな』『暇になんの』『そりゃもう 仕事たほたっちょくき』『ちゃーら ふんと好きじゃな一』 五助が前かる いつか『いっぺんさせな一』ちい言うちやつたぬ覚えちよつち いいあんべーに 仕事ち泊まりがき一行ったらしいき 誘うこち一なった。

五助さんも足が地につかんごつ喜くうじ 仕事もそこそこに切りあげち 馬ん鞍お降ろしよせん ダノモンぬフトロクサン 駄桶に入ると飛ぶごつ出かけた。待ちよるごつシコーシチ 『始めてんいいな』『……』 聞こえんのか返事はね一けんどもうはやる気持ちゃ押さえきれんごたる。

そこらじゅうをかたづけちくれち 相手もそん気じゃろうごたる。『撫でてんいいじゃろう』『いいけんどじっとしな一え』『解ちよるき こんくれ一ならいいな』『まあよかろうな』『どげえなうまいじゃろう』『もちっと腰う使わにゃ悪いで』『ふんとえ けっかやかましいな』『そげ一ね一で ほかんしなら まっと言うんじゃが あんたじゃき遠慮しちよるんで』

じっと力を入れち じっと撫でたものじゃき 今まじ待ち兼ねた思いん燃ゆるごたるもんが ホテッチ来た。『もちっと早うしちみて』『しよわね一かな』『慣るりゃやっぱ早えほうがいいき』 心が溶け合うたんか調子がゆうなった。腰を押しつけ悶ゆるごたる滑らん下かるず一と撫で回す。

『ここは影じゃね一に黒いなあ』『影じの一でん黒いがえ一 そこん高えな一特別難しいんで 無理しなんなクズルルト……』『何え クズルルコターナカロウ』『ソコン穴にゃ指先がいいんで』

『やっぱ指先も使うんな』『そうじゃがえ 握ったりスゴク事もあるんで』『へーなかなかやえこちゃねーな』『やっぱなえ……』何か思い出し笑いんクスト声。五助さんも真剣向かいおったもんじゃき 汗がにじみでーた。『汗ふかにゃ手が滑べりゃせんな』『しよわねーごたるが 穴ん中まじ入れたなーいいがな どげーな見かけと違うかな』『ちった手が荒れちよるきなえ』

やっぱ荒れた手先じゃ痛い それでも刺激があるきいい 見た目にゃいろいろと写るもん。純情な五助さんにしちみりゃ 言わるる一つひとつが真剣じゃき 気を回す暇がねーごたる。『撫ずるだけじのーじ ちつと両方に広げち覗いち見ちゃどげー』『えー見るんな まあそげなところまじゃ行っちゃらんき』

『そりーしてんこんくれー撫でちよきゃ 気持ちがいいもんじゃが 相手ん事も考えち撫でんとなえ』『それで 何でんだまっちょてん ちゃんと気持ちゅ解っちゃらんと 嫌わるるで』『じゃろうな あらこん穴にゃ何か手にかかるで』『そりゃそうじゃがえ 穴が一番大事な所 観音様ち言うこと』『……』

顔赤らめた五助さんが 『こん高えなー何んかな』『りゃー知らんの ほらビクットしたじゃろう』 驚かしゅうち踏み台を足じちようと動かしたもんじゃき 高えところがビクッと動いた。たまがった五助さん 振り向いち側に來た顔を見ると 落ち着いたもんじ 『そこが乾くと穴をふさいじ ゴミが入らんごつなるんで』

やっぱ理屈ゆう出来ちよる仕事ん仕組みに 舌を巻いた五助さんな感心しきり。『ほら見なー撫でた所が乾いち いいし上がり』ふんとなー素人でんけっくや ゆう出来ちよりゃ』『ちっと穴が大きかったかな 太から花瓶にすりゃいい』『それもそうじゃなあ』『まあ徳利は無理じゃつたな けんどこんだ帰ったら習ゃいいもんが出来るわな』『おらん留守に済まんじゃつたなえ』

次日に帰っち来たき 五助さんが『ちょこっとワヤクしたで』ち話した。『ケックシャユウ出来たごたるな』 照れくせそうに顔赤らめち 『まゝ修行がたらんな』 二人は大声じ笑った。じゃけんどやっぱ 自分じやっちみち自信も出来たごたる。帰り道じ頼まれ荷物が入った五助さん。

明日早発ちじゃき『コイサしこーしちょこう』 夕飯う食うとそんしん家に出かけたら 影が二つ障子に写ちよる。『誰か来ちよるんかな』 五助さんも邪魔すりゃ悪いち そっと側まじよったら中かか話し声が聞こゆる。聞き耳は悪いけんど仕事ん事もある。じっと近寄った五助さんな 生唾ぬーだ。

『もちっと真剣撫でて』『そげーひづうしてんいい』『いいき』こりゃただごつならん話し声。『もっと もっとちや そこそこがいいき』『ここな』 二人ん話しゃただごつならんごたる。『もちっと押さえつけて いいな持ちあげてんいい』『しよわねーで 力ついーな』

『あんまり 押さゆると あぶねーごたるわ もうたまらんなあ ちょいと止めて』『しよわねー』『うん じっとしちょつて』『こんままじいいんな』『そこん隅にゃ 見つからんかなあ』『でーぶんゴミュー撫で落としたけんど 解らんで ここじゃねーんじゃねーんな』『そうじゃろうか たしかここに落とし込んだごたるに』

五助さんががっかりするような 安心するような失せ物捜しん。一人じ変なこつー空想した自分が 馬鹿らしいやら おかしいやら入るんも帰るんも出来んこちーなった。中ん二人も元に場所に納めち 『五助さんなコンナー何しよるんじゃろうか ふんと』 こりゃまゝ とんだ跳ねたになっちしもうた。でんまゝ何事もねーような顔に 大声じ『おるかえ しこー出来たな』 二人の聲が中かか 『待ちよるで上がってちくんなー。



## 怖いもの見たさ

『あれいっぺん見てけんど』 えーと二十歳ちゅう過ぎたちゆう娘 五助たーだいの仲良しじゃき 遠慮もねー甘えたり時にゃ タマガルゴタル事う言うたりもする。『やーまあ言いよるんか やんどーも好きじゃのう しょわねーんか』『しょわねー』 真顔じ見らるりゃ真剣なごたる。

娘があんまり言うきもう諦めた五助 ほんな来りゃいい見せちゃるき。声う出すな…見らると困るき。まるじ眠っちよるしを見るごたる目じ じーとはぐった。早鐘が打つようん思いじ生唾飲む娘 それよりか娘ん好奇心のほうが 気になり苦になる五助でんある。えーと願いが叶うち思う娘ん心ぁ もう弾んでんおる。

じっとはぐったそん物う見た 『ちゃー案外黒いじゃなー』『そうとん 見つけられんごつごまかせるるきの』『見事ん出来じゃこと そしち先が磨けちよるなー』『使うはず磨くるもんじゃき』『じっと膨らむき おじいど』『えーそげー膨らむん』 娘ん心ん中にゃ獲物狙ったオオカミン姿が浮かんだ。両手じ動かした五助さんの顔も 真剣そのもんじゃつた。

『これじ旨い具合にくわえたら たまらんじゃろうな』『そりゃもう相手も悶えまわっち 逃ぎゅーどちする。こっちも放さんごつ必死』『もてんなーふんと』 娘がまるじ熟れすぎたごたる 話し方につい五助も釣りこまれち こげな大人びたシャベリかたは 自分にも責任がありそうじゃち思うた。

『いっぺんアタッテンイイ』『あぶねーどヒョイト』 そこまじ言うと五助さん打ち切った。これ以上こん娘ん心う乱すと それこす大事ちなりかねんき。『もうよかろうが 解ったか あぶねー道具でんあるきの』『いんげモチット見ちよりてーな』 困った。

五助さんもシモッタ事ィナッタチ思うたが もう満足した以上に娘も納得はしたごたる。磨けた頭先それがいよいよん時 獲物ぬしやんとくわゆる。日ごろら知らんふりしちよつてん 出番になりゃ大きゅう構える仕組みに 娘盛りん心にゃ人知れず見た 好奇心が燃え上がっちゃうる。

とうとう撫で回しで一た娘 怖いもん見たさん夢が叶うち心境ははかり知れんがとにかく 満足した顔ん影にゃ仄かな 楽しい夢も思いでになるんかん知れん。それにもし自分が使うとすりゃ どげな手じどげな体じ どげな作戦じ………そげなこつ一思いながら じっと覗きこんだ五助さんに そっと耳元じ囁え一た。

『うっと一もいっぺん使うちみて一けんど』『なにや やんなふんともう 危ね一ち言うたじゃろう』『しよわね一わな いよいよん時になりゃ覚悟気決むるき』そこまじ言う娘心う押さえつくる訳にゃにゃいかん 五助んけ胸ん内でんあっち 返事に困ったがもういいか とん思えた。

怖いもの見たい そげな好奇心がここまじ育ったなあ 五助にも嬉しいけんど 時ならん時いハメハズシすりゃ 一生が台無しにもなりかねん。五助さんも娘が好きじゃきなおさら 心配し気も使い顔色見ながら 興奮気味の娘の心情を和ませにゃち 次ん手は何がいいか思い巡らせちゃうる。

『解った ほんな一遍だけ仕掛けちみるか』『いいんな』 弾む気持ちゅう落ち着かせし 引きずりで一ち目の前に並べた。『こくうっちゃんと押さえち開け』 『けっくしゃ強いなあ』『そうとん手を挟むと切れちしまうど』『そら ひろげたらそき一板を挟め』『ここに飛び乗ると足をガチュじゃな』『これが仕掛けわなち言うんじゃ』『あーよかった 覚えたごたるで』『こいちもうふんと どんこんなりゃせんおう』『おごめんな』



『ギックリ腰ん ご褒美』

『どけーしたんな』『ちよいとギックリ腰んごたる』 薪とりん若えしどもが山に入ちよる時 わりに力があんに どうしたハズミか『ギックリ腰』ち ヘナヘナ座りくうじしもった。『みんなに言うちくーなー』『いいで 黙ちちよけ心配するき』 仕事に来ちるしに済まん 心くばかりか。

顔うしかめちこらゆるぬ 見ち側におった近所ん娘も ただ事じやねーち感じた。が 本人が『言うな』ち言うんなら いっとき休んじょりゃ治るんかちも思うた。心配もあるが まんだら嫌いでんねえし 一人おいち仕事うする訳にもいかんき 側じ見ちやるこちした。

いっときしたら痛みがゆうなったんか 顔色はゆうなったが仕事たー無理んごたる。『じっと立つち見たらどげーな』『じゃのー』折角誘わるるき言わるるごつ じっと立ちあがち足う踏んばった。笑顔がチョロットこぼれたな 心配させめーちする気くばかりか。それとん今しがたよりゃ軽うなったんか。

『立てるんならふが いい じゃけんど無理は悪いき いっときヨコウチョキナ』『お前ゃ荷が遅るると はよ作ちちよかにゃ』『うっとうはいいき 出来んでん心配しなんな』 言葉んやりとり真剣心配する娘んイジラシイ事。若者も済まん気持ちと甘えてー気持ちちが なんか交差しちきたごたる。

そん気持ちち男心うくすぐち 女性本能ち言うんかもう二十歳う 越ゆりゃ自然と女らしさが 体一杯に張り詰めちよるんじやろう。『すまんのや 元気なりゃーそん分ぬ加勢するきの』『いいでそげんこたー』 二人は顔見合わせち微笑みが こぼるるような今また痛みが走った。『しよわねーんな』『……………』

ヒザに顔おいち横になんなー』『いいんかそげんこつー 人も見  
ちよるかん知れんに』『いいこと 人目なんか気にしなんな 悪い  
時おお互い様じゃこと』『甘えてんいいんか』 そん一言にゃ娘も  
どきとしたが 今更『そうじゃなー』ち なんかは言えんこつな  
った。『心配せんでんいいき 早うゆうならにゃな』

そして娘の心情は 今介抱してやるのは自分の 巡り合わせでん  
あるとも考えた。そして愛情んごたる自分でん解らん気持ちに 変  
っちおる心境も感じ取っちゃつた。言わるるままにヒザに頭をおく  
と 女らしさん匂いが仄かに 全身に入りこんじ来るごたる。汗と  
体臭と優しい心の情愛とか 今ん体調を支えちよる夢んごたる 空  
間に若者も湿る思いが行きつ戻りつ。

時ん流れは止まったり流れたり。娘もそっと顔を撫で汗を拭いて  
顔を寄せると 独特な男の逞しさ香りが 自分を包容してくれてい  
るよう感じ取れた。アゴを撫でる 伸びたあごひげが男性的であ  
り 鼻息が妙に心弾ませてしまう。じっと見つめた顔と ちょいと  
自分を忘れた逞しい腕を触り 手と手を握りしめた。

それに応えてやりてーが……ちっと一痛みん抜けた手じ握り返し  
『済まんのや』『…………』 言葉にならない切ない瞬間。時が流れ  
時間は惜しみのう刻まれちいく。二人ん気持ちが行き来する山の中  
じ 散らばったほかの若いたちは それぞれの仕事が続けている  
んじやろう。『言わんじい』と 残した心の優しさが仄かな夢に。

腰が痛むんならバンド緩みようか』『そうじゃのーそれがいいか  
しれん』 甘ゆるでんね一言わるるままに 手が軽やかに動くのが  
痛みを和らげるような感触。素直に娘の介護してくれる 今の気持  
ちを大事にする事が回復の早道かんしれん。山の静けさん中じ小鳥  
が羽ばたいた。心が落ち着いち痛みが取るる 前兆かも知れん予感  
に 言い知れん嬉しさも。やっどベルトが緩んで少し楽になる。

ヒザん上に頭を乗せたき上体を曲げち 胸ん上に自分がん胸う重なるどつしち バンドを緩めそん先う引き上ぐると 息づかい荒え腰ん波うったき たまがっち手をやった。温もりが伝わっち真剣に力入れたき 手先に汗がにじみでた。そん手先がヒョイトシタはずみに 緩めたバンドん脇かる滑りくうだ。

ヒザに乗せた頭を動かさせめーち 踏んばるもんじゃきいちべ胸が重なっち 左手はつっぱったもの 滑りくうだ右手はそのまま奥ん窪みに……そのままあそこまじ……顔が赤うなったんがゆう解るが 声も出せんし重なった胸も ひどけられんごつなった。重苦しいんか『しよわねーんな』『…………』

やっと元ん格好になっち引き出した手 覗き込むと痛みは消えたんか 顔色はゆうなっち笑顔もこぼれた。『バンドはずしたらちったいい』『助かったわい 腰の痛みも楽になった』『よかった』頭をじっと持ち上げちバンドを 『いっときこんままじいいわい』恥ずかしい思いの背中かる 見る限りじゃ痛みがへったんか。

『どげーな ちったゆうなごたる』『おおかた 世話なかるうごたる 済まんじゃつたなー』『あげんことんじょう 早うゆうなっちよかった』 本当はこんまめにおりてー そげな気持ちもする娘じゃけんど 仕事もある。それに一緒に来たしはこげな事うひとつも知っちょらんでんある。

あん先にゃシンボルん元気な頭が キラキラ光よったかん知れんと 娘心の悩ましさが悔いになっち伝わる。でんこままじよかったんかん 胸が重なる刹那流れるごたる 情愛ん脈は確実に伝わりよった。外したバンドん中にゃ 谷間んいつか出会いの証うきっと喜び 待たるる月日ん営みん中に 組み込まれちいるかん知れん予感も。豊かじ女性本能ん宝物と 巡りおうた『ギックリ腰んご褒美』 けっくしゃよかったな。





## 痒ゆうじたまらん

一人の老人が一夜の泊まりを請い 泊まるこちいなった。目の不自由に気がつかんじゃった 百姓んしが食べ物だけ済ませち 先に寝ちもろうた。夜なべ仕事がせわしいもんじゃき うっかりしちよち蚊帳とん間ん 飾り布ん話しゅうせんまま そんしは飾り布をくぐっちそこに寝た。

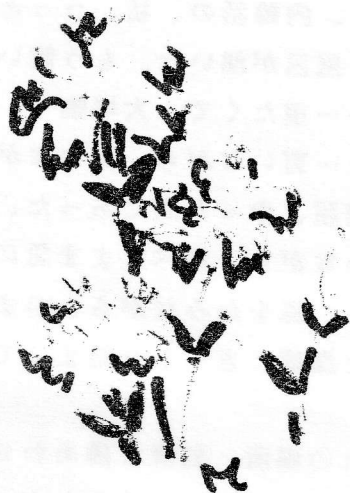
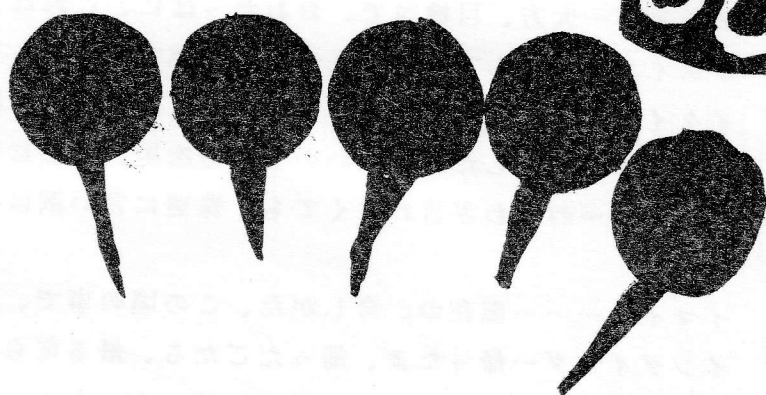
夜が更けちせせろしゅう蚊かる攻められた。泊めちもろうち文句もいえん 仕方のう『うとうと眠り』じ 蚊を追いながらえーと夜あけになった。『ゆー眠れたじゃろうか』『はいはい 大変ゆう眠りました それにしてんまゝ あんたがたはゆう働くなあ』『貧乏はもうなえ 働かじゃ食えんもんじゃき』

『いっぱい入れちよくれ』『さあさ入っちょくれ』『痒うじならんがな』『やっぱえ うっとうもこん頃あ痒いじなー』『あんたどうは若えき 無理もねーけんとなえ』 みんなが入りたがるのん『アセボ』が出来ち ここん湯はいいんと。年寄りが早うかる桃ん葉を入れち 沸かすけんか『アセボ』に ゆう効くち言う。『アセボ掻いてん あっかゝ掻くな あっかゝ手がいいき』

昔かるん生活上手ち言うか 生活ん知恵が役立つもんじゃ。そりい近所しんしも助けおうち それが人間じゃろうなあ。自分かだけがゆうてん周りんしが 困っちょりゃ助けおうちこす 世の中うまい具合に行くもんじゃ。たった一度ん人生ぬケチケチしてん 元は裸じゃねーな。



力言學語



方言の中にゃ同じ言葉を二つ使うのん多い。そげな方言にゃ違う意味にでんなるき 生活用語としちゃゆう考えたんかん知れん。愛読してくれる皆さんに ちょいと頭ん体操ち思うち読んじょくれな。順番なあんげこんげするが あんまり気にせんじょくれなあ。そげな言葉ん中にも やっぱ優しい心使いがあるき嬉しい。

アイアイ……………合間に、時々会いながら、返事ん繰り返し。  
アエアエ…柔らかな食べ物を材料に作る菜、季節ん風味の食菜。  
アキアキ……………飽いてしまう、間隔を開けなさい、秋の最中。  
アツアツ…沸騰した温度、炊きたての食事、出来たばかりの物。  
アトアト……………後にしなさい、これから先の事で、しこりが心配。  
アラアラ…大方、目検討で、おおだっぱに、これは大変な事で。  
イエイエ……………とんでもありません、謙遜する仕種、言いなさい。  
イクイク……………行きますよ、いずれはそんな宿命、射精の刹那。  
イタイタ…いましたよ、痛いのも我慢次第、そこに隠れている。  
イチイチ…わざわざ言わなくても、殊更に言い訳は、もっとも。

イマイマ……………現在の、今しがた、この頃の事で、最近あった。  
インダインダ…帰ったよ、帰ったごたる、帰るならほっちょけ。  
ウチウチ…身内の事じ、内輪話の、私、うっとー、近いうちに。  
エータエータ……………風呂が湧いた、もう飽いたので、退屈で。  
オミーオミー……………重たくて、大場物で、かかえもうさん。  
カイカイ……………買いながら、飼いながら、掻きながら。  
カツカツ…ぎりぎり窮屈、やっと思にあった、どうやら一杯に。  
カムカム……………噛みながら、食べたまま急に、食べてすぐに。  
カミカミ…噛みながら、鼻をかみながら、つまみ食いしながら。  
キチキチ…きちんと潔癖、ぎっしり詰まって、窮屈になって。

余裕がない、すれすれの場所、危険と隣あわせ……………キワキワ  
疲れ果ててしまう、精魂がつきて、食うたよ……………クタクタ  
曲がっている、根性がひねくれ、使い様で役立つ……………クネクネ

クルンクルン……くるくる回って、自然によく遊ぶ、機嫌よく。  
クルクル……よく回って、きっと来ますから、目が丸く輝く。  
ケロケロ……見回して、失敗を隠すように、落ち着かない表情。  
コチョコチョコ……撫でられて刺激が伝わる、子供の戯れ。  
コロンコロン……転げ回って、転がりながら、調子のような動き。  
サイサイ……よくよくある事、くり返してある、あきれほど。  
サキサキ……いずれ将来、この次にも、これから先には。  
サラサラ……さらりと、涼しげに、鈴の音のように、思わず。  
シャラシャラ……見かけ倒しに、いかにも飾ったよううな。  
シタシタ……しましたよ、終わりました、やっと水に隠れる程度。

あっと思うまに滑る、擦れ抜けて、機敏に……シュルシュル  
皺がたくさん出来て、皺のよった衣服、軽快に……シワシワ  
空になった種、実入りの悪い穀物、空くじ……スカスカ  
好きでとても、隙間に用心、好みによって……スキスキ  
滴が落ちる、こぼれ落ちる、したたる様、軽い足……ストスト  
やっと通れる間、境目のきわどい、危険と隣合わせ……スレスレ  
隅っこ、片隅、目立たない存在、控えめに……スミスミ  
万事調子よく、立て板に水のように、順調に……スラスラ  
すばやかに、すばしこい、しますよ、語ります……スルスル  
競い合う、どっこいい勝負、どっちつかず……セレセレ

タンビタンビ……度々に、その都度の事で、毎回世話になり。  
タイタイ……魚の幼児言葉……めでたい事から鯛に代表する。  
タッタタッタ……立ちました、家か無事棟上げ、勃起して。  
タカイタカイ……両手で差し上げて、より高い理想に、子守り姿。  
チャリチャリ……神楽に出る道化役、ひょうげもの、滑稽役。  
チカチカ……近いうちに、目がまぶし過ぎて、急に刺激され。  
チクチク……激しい痛み、急激な痛さ、刺激による痛み、激痛。  
チャンチャン……終わりのあいさつ、食事の終わった区切り。  
チョロチョロ……落ち着かない動き、あたりを歩き回る。

テレテレ……ぼんやりして、のんびりと、照りなさい、騒がない。  
テンテン……手まり、手拭い、あちこちに、思い思いに、天井。  
トベトベ……飛びなさい、走りなさい、思い切って、はしやぐ。  
トビトビ……飛びながら、間隔をおいて、あちこちに点在する。  
ナマナマ……生きている、生き物で、真新しい上物、生意気な。  
ナカナカ……どうして大したもの、結構やるじゃない、見直した。  
ナンモナンモ……とんでもございませぬ、気持ちだけで、ほんの。  
ナイナイ……ありませんよ、いませぬよ、なくなった、内緒の。  
ネンネン……眠りなさい、寝たようです、眠たいような、年ごとに。  
ネチネチ……粘りこい、陰湿な性格、粘りが強い、くっついて。

ひょつこりと、場違いに現れる、邪魔になるような……ノコノコ  
落ち着きはらって動き回る、威張った風格……ノソノソ  
邪魔になりそうな、目障りな振る舞い、のんびり……ノロノロ  
暖かそうな風体、湯に入った気分、極楽気分の……ヌクヌク  
伸ばしては、程よく伸びる、のぶだけならいいが……ヌベヌベ  
塗った上に追いかけて塗り、上塗り仕事の妙技……ヌリヌリ  
粘っこい性格、粘りついて困る、手に負えない粘さ……ネチネチ  
眠たいばかりに、目がとろっとして、眠たかったか……ネムネム  
練りながらの技法、練った上にも入念に、寝ながら……ネリネリ  
のけなさい、門ごとに、軒端ごとに、急に言われる……ノキノキ

ノコノコ……ひょつこりと、思わぬ所に、場所違いに現れる。  
ノミノミ……飲みながら、蚤を見つけたよ、飲むのが趣味で。  
ノリノリ……調子よくなって、今が一番見せ場、次が怖い人気者。  
ノベノベ……伸ばして伸ばして新記録、背伸びしなさい、おきくなれ。  
ハイハイ……這い出した、よく解りました、承知しました、二つ返事。  
ハシハシ……端っこの方、隅っこの方、周りの重要な場所、周り。  
ヒタヒタ……手たたき水、ちょうどよい按配、干ましたよ。  
ヒニヒニ……次々に変化して、日増しに成長する、毎日が変貌。  
ヒマヒマ……余暇、ゆっくり休める時間、手持ち無沙汰、遊びの休み。

ヒリヒリ………ひどい痛み、たまらぬ痛さ、やけはたなどの火袋。  
フカフカ………ぶあつい寝具、大きめの帽子、深めの帽子。  
フサフサ………多い頭髮、谷間の陰毛、羨ましい器量美人のつけ髪。  
フリフリ…振り回しながら、降り続く雨に当惑、振り上げる柱松。  
フシフシ………関節の不具合、歌の曲風、変化する場合の知識。  
ヘタヘタ………座り込んでしまう、疲れ果てた状態、疲労困憊。  
ヘナヘナ………気合いのたりない有様、活気のない生き方。  
ヘラヘラ………薄笑い、憎しみの笑い方、馬鹿にしたような笑い。  
ビラビラ………すっ飛んでゆく、元気よく走り回る、所構わず走る。  
ホイホイ………うまくちょろまかす、調子に乗せて、おだてて使う。  
ボツボツ………ゆっくり慌てない、急いでは失敗する、日にち葉。  
ホカホカ………陽気がよくなって、暖かな日だまり、幸せいっぱい。  
ボツンボツン………慌てないでゆっくりと、落ち着いて急ぐ事なし。  
ホセホセ………干しなさい、干せば食われる、干すのが生活上手。  
ホラホラ………みなさい、用心しないと、見極めて前を見て。  
ボチボチ………ゆっくり慌てない、慌てる蟹は穴に入れない。

こげーしち見りゃケックシャ面白いち 昔んしの生活用語にゃ  
生活ん知恵も 世渡り上手な手本も込められちよった。  
同じ単語を組合することじ 覚えやすーもあるし話す時  
でん 話しやすいちも思う。話すな…放すに結びつくち  
言うなゝ国学者。語るな…仲間にへーるち言う意識が働  
くとん言う。どっちしてん情愛がこめられちよりゃ 話  
しでん語りでん好きなふうにする それが生活用語方言でんある  
ごたるが どげーじゃろうかなえ。愛読者ん皆さん。



そげーいわんでんいいんじゃねえ、落ち着いて話う……マアマア  
落ち着かなくて気がはやる、気分が上気している………マイマイ  
種を撒きながら、安く値引きして、腰に巻きつける……マキマキ  
自慢を言い出したど 解っちよる自慢の息子見せてえ…マタマタ  
いろいろあるから、考えが違うと、みんな思いは違う…マチマチ

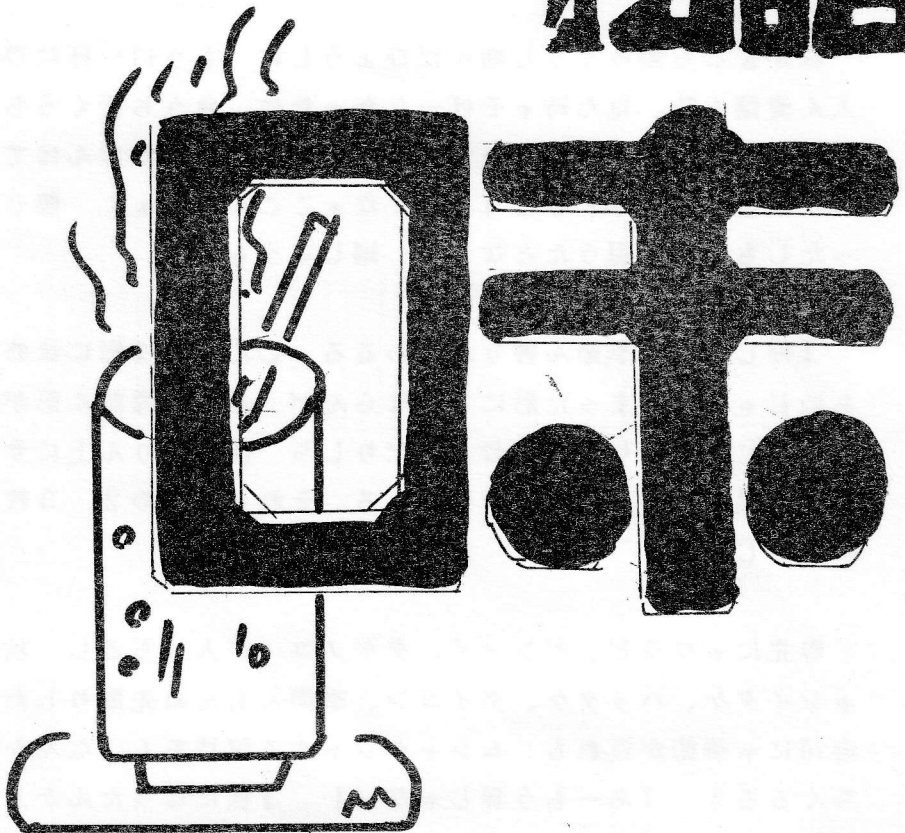
マテマテ…待ちなさい、まってください、ここが辛抱のしどころ。  
マメマメ…小回りが効く、よく気がつく性格、可愛いらしさが。  
ミシミシ…不気味な音、見せたらどう、余計見たいが人間の情。  
ミチミチ…歩きながら、途中で話します、苦労した過去、人生。  
ミナミナ…ほとんどが、ほかの人たちも、同じではない。  
ムカムカ…嘔吐するような、むかつく気分、気に食わぬ事の。  
ムラムラ…興奮して押さえるのに苦労、さめやらぬ気分。  
メリメリ…物音が異常、大丈夫ですか、変わった事が発生して。  
モクモク…燃え上がる火炎、黒煙りが立ちのぼる、気構えが違う。  
ヤスヤス…簡単には、お人好しだから、尻軽いと言われる。  
ヤセヤセ…やせ過ぎにご用心、何でも程度物で、ほっそり身。  
ヤマヤマ…せいせいこれくらい、知れた風袋、これ異常は無理。  
ヤムヤム…仕方なしに、止むから辛抱、病みながらでも頑張る。  
ヤレヤレ…ほっと一安心、肩の荷がおりた、落胆は危険だが。  
ヨキヨキ…よけてくださいよ、よけていないと、触らぬ神に。  
ヨロヨロ…弱り切って歩行も困難、よろめきは身の破滅。  
ユータユータ…酔いましたよ、心持ちのいいのは今の内。  
ユルユル…ゆっくりと、お休みしながら、説教は時間が必要。

せいぜいんこと、これくらいが上等、これくれえ…ヤマヤマ  
よほどん訳があったからじゃろう、無理もない事…ヨクヨク  
わかったから心配むよう、任せておけばよい、了解…ヨシヨシ  
足取りが悪い、世話わないんかな、いつもの癖が…ヨタヨタ  
計算高いから、任せておけばすばっと、誤算なしに…ヨムヨム  
大丈夫か足もとは、よろけた振りがうまい色男…ヨロヨロ  
騒がしいわりにはケチだが、旨い具合に誤魔化し…ワアワア  
別けてあげるから、平等に分配、分け前のご褒美…ワケワケ  
悪いと言うわりには離れない、どこがいいんか知らん…ワリワリ  
大声で泣くなみっともない、騒がしいが世話ないか…ワシワシ  
大事集まって、作り立ててしよわねーか、豪華…ワンサワンサ



# 金剛鐵道

## 物語





旅んしが道中じ楽しむものの中じ 食い物もそん1つじゃつたん  
じゃろう。土地にしかねえもんもありゃ よそにあってん ここじ  
ゃきい旨えもんもある。人ん優しい人情かる景色んいいのん 心が  
和むけんど湯にへえっち 食ぶる物んの味ゝまた格別。それじのう  
でんチョコット腰かけち食う それもまたうめーもんじゃろう。

『稲荷ずし』チョコット握った あん油ん艶にチット中かる覗  
いた具。時時ん香りが添えちやる 思わん箸が先に出ち行く。食ぶ  
る前かる唾が出るごたる 作ったしの気心が伝わるごたる 食べ物  
あ自分かたじゃあんまり気がつかんでん 旅先じこす解る女ごしん  
腕ん冴えか。母性本能ち言うんか。

味がまこち染みくうじ嚙んだひょうしに もう口一杯にひろがる  
人ん愛情ん味。見た時ゃそげーなかったに 食うち行くうちにもう  
タマラン 旨さが醸し出しちくるる。食い終わった口んはてーそん  
油が 舌なめずりすると『うめーなゝここん稲荷ゝ』 隣じ食いよ  
ったしもそげー思うたとなりゃ 嬉しゅうもなる。

『押しずし』季節ん香りが使わるる こん寿司は形にはめち作る  
ものじゃき 決まった形にしかならんが 4, 5種類ん形が梅じゃ  
たり桜じゃつたり 太鼓じゃつたりしち 仕上がりん上にサンショ  
が 行儀ゆうチョコット着けちやる。それもほんの2, 3枚がまた  
にくらしいな。

春先にゃワラビ、ゼンマイ、タケノコ が入っちるし 秋になり  
ゃシイタケ、ハツタケ、ダイコン、季節んもんぬ先取りした こん  
寿司にゃ季節が疲れも ムシャクシャする気持ちも なんか浄化し  
ちくるるき 『あーもう春じゃなー』 『秋になったんか』 そげ  
な解っちょんに季節に出会い 人間の幸せもチョコット味わうごた  
る。そげな季節が絶対巡っちくるんも 嬉しい人生でん  
あるごたるけんどなゝ。



## 『ビッチョあれこれ』

『ビッチョ』ち言うなぁ小麦粉に 適量ん塩う入れちコネち寝かすりゃ材料が出来る。戦前かる百姓ん晩の主食 戦中にゃ代用食ん筆頭 そしち戦後にゃもう 上品な副食にまじなった強者。

じゃき使い道も多いもんじゃき いつまでん根強い人気がある。娘が『ビッチョ』延ばしきりゃもう一人前 『嫁ごに行かるる』ち折り紙もつけられた。

だんご汁…適当な時間寝かせたぬう 延ばしち中かる半分に裂いち 鍋にナンコム…裂くなぁけっくしゃ難しいけど これが豊後独特ん手さばき。厚薄巧みな延ばしかたと 裂いた微妙ん薄さにゃ作るしん 愛情がこめられちよる。取り合わせん野菜は何でん合うき 季節も材料ん吟味もねえが 好みを知った上じ取り合すりゃもう旨さは抜群。

やせうま…同じ方法じ延ばしち茹ずるが 揚ぐる時にゃ水につけんじ そんまま冷やす。こりい黄粉、砂糖をからませたんが これも豊後ん食品になる。★ 若殿さまに仕えた子守役ん『やせ』が食べさせち『うま、うま』ち言うた事かる名前がち一ち言う。

あま汁…『だんご汁』と同じ作り方じゃが 仕上がりん野菜は入れんじ そん代わりに砂糖なんかん 甘みを入れち仕上がり。小豆なんかん豆ん煮たのに『ビッチョ』を いれる事じ好みん味仕上げにすると 百姓じやご馳走ん一つにもなる。

これらが総称しち『だんごびっちょ』ち言うが 団子たぁちっと違うスタイルでんある。がもともとコネテ団子にした そこから始まる小麦粉からん 絶妙な食文化かん知れん。消化も栄養価もある米に変わる 代表的な材料でんある。塩ん加減は慣れによる。

うどん…これも『ビッチョ』ち言う 方言かん知れんが親しみも湧いた語源。『早うビッチョすすれ』つまりうどんぬ食べなゝん事。すすれ…すするように喉越しゆう食ぶる。『うどんびच्चょ』とん言うしもあるが それだけ慣れ親しんだしが 敬語んごつ言うんじゃろう。

『こいさビッチョじゃきこな』…今晚はビッチョですから食べに来ませんか 誘うような言葉の親切に 脳裏に浮かんだなゝ 果て…ビッチョはどれじゃろうか……空想するんも楽しいもんじ 出かけちみると なんとそれぞれがシコウしちやる。心くばりがとてん嬉しゅうじもう。ラッキョウンような涙ポロポロ。

うしんした…ビッチョにゃ手間どるもんじゃき 団子うちと押しえち茹でたんが『うしんした』 牛の舌んごつ厚みがあっち短けえに 砂糖からますりゃ 適当に砂糖が解けち 表面ぬ光沢ゆう輝かせち 牛ん舌にさも似ちよる。噛みごたえがあるき若者にゃ 喜ばる…太うじ短けえんがいいんじゃろう。若いしは。

落とし団子…ビッチョまじは待てれん時 忙しゅう作るんが落とし団子。何ちゅうこたゝねえ 小麦粉を水じ解いて適当ん型さじ湯の中え杓子じ抵当ん太さに 掻きとっちゃ入ると浮き上がっちもう出来上がり。具材はだんご汁とおなじもんじいい。炊き立てがやっぱ一番じゃろう。

子供が湯沸かしゅしよると だんご汁んビッチョん端くれが余るき 丸めち小竹の先に巻きつけち 『焼いち食べなゝ』ばあさんが持ち来た。ひもじかろうち 年う取ってん母性本能がきらめく。『あい』素早く受け取ると そんまま『おきん中』えせりくうだ。いっときすりゃ腹んたしなる 『焼きビッチョ』が出来あがる。こき一も百姓ん知恵が生かされちよる。『だんごビッチョ』ん出番でんある。生活かる滲み出た食べもんの知恵じゃろう。



◇◇◇ 粉米餅 すり粉餅 ◇◇◇

小粒の米やら米選機下え落てた米を 粉にしたんを蒸しちつuit  
んが『粉米餅』。柔らしゅうじ粘りが薄いき 食べるにゃ格別ん旨  
さもある。餅米ん少ねえしん生活ん知恵でんある。蒸したあと鍋ん  
中じレンギじついち 丸むりゃもう餅になる。こん中え 餡ぬ入れち  
『一つ食べんな』 顔に粉をつけた ばあさんが差し出した 手盆  
の粉米餅にゃ 人ん暖かい気持ちち丸こくり 包みこまれちよる。

曰う出えたり杵う洗うたりする そげな手間ものうじ 蒸しあが  
ったら鍋じちょこっと ついたらもう出来上がり。フツどま入るり  
ゃあん香りが又何とん言えん。ちょいとツマミトウなる。『ごっそ  
んなろうか』 上がり口腰かけち 手に受けた餅が伝わる人ん情け  
ん 『粉米餅』

『フツん匂いがいいなあ』『じゃろうがえ 孫が学校かる帰る時  
あんまり美しいき 取っちきたんと』『けっくしゃ気がきくなあ』  
『食いとうなったんかん知れん』『じゃろうなー あんたんが餅  
あひときわ旨えきなあ』 話が弾んじょつたに そん孫が帰っち来  
た。『お帰り』『ただ今 粉米餅作ったんな』『あー出来たで食べ  
な』『うん』『フツが旨えで もう よばれよるき』

久しぶりん庭先ん笑い声に 通りがかりんしも 寄っちきたらも  
う ばあさんの笑顔がくずれちしもうた。のぞかな農村の片隅じ人  
ん気持ちちが 季節ん香りゅ取りくうじ流るる。

粳米ん粉じ作るんが『すり粉餅』 粉米餅とんゆう似たもんじ  
間違いやしいが 『すり粉』た一餅つきん『トリコ』に 使うもん  
じ正確にゃちっと違うごたる。どっちしてんヤラト変わらんけんど  
やっぱ 知っちょつち悪いこたねえ。粘りが少ねえけんど蒸すこと  
じ あんまり変わらん粘りも出ちくるもん。

◇◇◇ そして餡ころ ◇◇◇

こげな餅が出来ち美味しいなァち 満足した後じ続いち作りてーんが 『餡ころ餅』。ついたあと餅にするにゃ 平とうしち餡を入れるが こんだん『餡ころ』にゃ 外に餡をつくる。大ききも一口に入るくれーが上品。ぐるりに餡をつくりゃ出来上がり それを竹くしに3つぐれー指しち 皿に盛ると『餡コロ餅』ん晴姿。

噛んだ時ん甘みん食感に続いち 餅モチした歯ざわりが餡の甘みと ゆう調和しち絶妙な食感を味わせちくるる。冷たくなつたぬう歯に染みるごたる そげな食いかたなんか 田舎じゃきこす出来るんかん知れん。甘いもの少なかった頃じゃ もう絶品でんあったが こん頃は姿が消えつつある。

もともと楽しみの少ねえ田舎ん 手のこんだ食べ物じゃつたが 手間がかかるけん嫌わるる。それでん上手に作っち ちょいと出す心くばりなんか にくいね本当ん情愛ち言うんか。人間たまにゃ甘もんがほしい時 そげな時に手間隙かけち作った 『餡ころ』が まっ白いフキンの下から サット出された途端にゃ 心くばりに涙がこぼれそうにもなちくる。

餅米た一贅沢な食料だけに やっぱ使い方に知恵を働かせち 心こめた作品に仕立てるあたり 人間の奥ゆかしさも伺えるごたる。今は餅米もいつでんどこでん 手に入るが古い時代のしかも 小作人にしちみりゃ高嶺ん花でんあった。じゃき生活ん知恵としち考えた アイデア食品でんあったのか。それとん巧妙に仕組んだ特産品か。街道ん茶店じちょいと見かくると そこに『餡頃餅』がある もう口かる生唾出るごたるなァ 人情じゃろうなァ。

欲求する甘みの補給にゃ 一口サイズはまさに薬んごたる存在。泣かするごたる妙なる食品美感覚ん味。



## 『一合雑炊の妙味』

節約時代ん名残りち言うと 無理もねえけど 昔かる夕食に使われちよつた定番でんある。百姓は米ん辛抱が先走り 糧食を大事にした先祖かるん家訓は こげな形じ受け継がれても来た。辛抱ん気持ちは勿論あるが決して ケチじゃねえ感謝ん念も含まれちよるき 慣れ親しみごく当然になりゃ 抵抗もねえごたる。

お決まりんイリコだしに 季節ん野菜が入り残り飯が ちょこんと入るともう出来上がり。適当に栄養が取れ歯あたりも 食感もこれまたえに言えん情愛に 包みこまれてしまう。消化がゆうじ栄養が事足りると それこそ食生活ん真髓でんあろう。見かけが貧弱ち思うにゃちっと おかしいんじゃあるめ一か。

季節ん野菜にゃ持って生まれた野菜ん 独特な味があっち他のもんじゃ出せれん。これがイリコだしと味噌に 旨く調和するき不思議でんある。柔らけえ残り飯が『捨てられずに生きた』 そげな心の現われになっち茶碗につがれた時 物の命にゃ喜びも浮かびあがり 役立つ嬉しさも漂わせているごたる。

煮えたぎった雑炊が仄かに香り 裸電球のないしょに漂い囲炉裏ん 燃え盛る薪に写し出された顔を 楽しそうに照らしだしてくれる。『早う食べなァ』 オカチャンが決まり文句の呼びかけに 顔が集まり箸の音が響く夕食。今日も元氣じ平和じ過げた一日 そこには『食べれることの喜び』が 主軸にもなっちよるらしい。

『いただきます』頂くと言うんは 物の命を自分が貰う事でんある。それが一椀の雑炊じゃつてん 自分の命をつなぐ為ん食べ物でんある。スルスル…それぞれの音が響く時心は気持ちは 今日ん夢かる明日ん夢に移り変わっち 行くんじゃろう。じゃき生きちよる価値もある人生。雑炊にゃそげな情愛もあるごたる。



『こがし…ハツタイ粉』

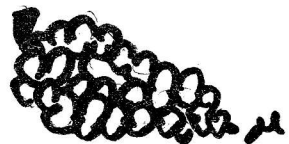
『こがしゅうハヌルナイイガ 鼻え入らんごつせんと』 年寄りが心配になるけんど そんくれ一言うと放たらかしじ 鎌ん柄をすげかえちよる。子供なんかサカシイき あんまり側じ言うと 嫌わるる。そり一聞いたごたってん 上ん空じ聞いちょつちすぐ忘れろくすっぽ聞くなあ少ねえもんじゃ。

麦を洗うと乾かしち釜じ煎る。臼が香りゆうすりつぶすと 季節らしゅう『こがし…ハツタイ粉』が 出来上がった。適当な甘さがあっちこんままハネチ食うのもいい。熱い湯を注いだダンゴは味も風味も 歯ごたえも何とん言えん味。非常食でんあったき夏にゃゆう臼じひいたもんじゃ。

かけにかかった町ん子が 『やしほ』ち親は嫌うてんけつくしや 効いたち言うきしまいにゃ親が のめりくうじしもった。風味は素朴でん味わいは人ん心が 溶けこんじよるごたるき 不思議でんある。見かけじきめつくる人間の悪い癖 ここでん生活ん中かる湧き出た知恵が 生かされちよるごたる。

紙袋に入ったハツタイ粉が オトシん中じガシャガシャする。音がせせろしいもんじゃき先生が 『こかしゅう持ちちよる奴あ机ん上に出せ』 たまがった生徒がオズオズ出えた。『お前は正直じゃのう よしネンブチ一つじゃの』 言い終わると手にもった竹んネンブチじ 軽く頭を叩いち『いい匂いじゃのう 欲しがるきカバンに入れちょけ』 先生ん優しい心くぼりがにくい。

百姓ん経済がゆう解るき先生も それは大事にせにゃち気くぼりしたんじゃろう。オトシじ紙袋が破れたらそれこす 食うにもゴミも入ろうし手にも掴めんごつなる。大事な食い物じゃき護っちやるんも 務めかな。



## 『ほっかぶり餅』

百姓が米を大事にしち食いのばす こりゃ勿体ねー農家ん真髓でんあるき いつも頭かる離れられんもん。夕飯前にダツタ季節にや変わったもん 甘いもんが人気がいい。野良から帰ちくると外からでん 香りが匂いが流れち そんな香り匂いかるすぐ解る天性。顔がニコット笑うなあこれが好きな子供たち。

『ほっかぶり餅』じゃなあ 誰からとん言うが早いかももう クドん傍えつうじ来ると手をさしだす。『手を洗うたんかえ』着物ん端じ 押しぬぐうとチツタ熱いに もう驚づかみしち口い持ちち行く。『ヤケハトースルデ』聞こえたんか 聞こえんのん『ハフハフ』食うのがせわしいごたる。

甘藷を上手に小麦粉の練ったのに 丸く包みこんで蒸す。ただそれだけの事じゃが粉に少し タンサンを入れると蒸しあがり黄色に 鮮やかなそして香りと チョツピリ甘みがあって 上品な見かけの『お茶受け』になる。かくして米の節約にもなり 蒸してすぐ頂く食感は素朴な中に 仄かな情愛も貰える。

甘藷の賽の目に切ったのを 混ぜて餅にすれば『石垣餅』と呼び、平たく切って入れと 『豊餅』とも呼ぶ。ほっかぶり餅は田舎のぢいさんが『頬かぶりしたような』 両頬を手拭いで包む格好にそも似ちよる。ただすっぽりかぶった姿だから 『泥棒餅』とも言うが これは美味しくて食いすぎるからの 苦笑い言葉かん知れん。

甘藷を蒸して切ったものを乾燥して 粉末にすれば『トイモン粉』または『トイモ粉』になり 粉を練って餅にすれば『カンコロ餅』に姿が変わる。代用食から主食に戦時には格上げされ 配給としても幅を効かせた強物。保存食にも餡子にもなり つぶして練り上げると『トイモ飴』にもなる。





## 『あの味噌　こん味噌　好きな味』

麦味噌が多い田舎でん　そんなまじのうじ加葉を入れると　また楽しい味噌味に出来上がる。『麦飯味噌でい』これは　上手に炊けた麦飯には味噌でも結構いける　そんな表現でんある。狐色についたオコゲなんかじゃ　言われん味が醸し出さるる。季節の山菜にも味を引き立ててくれるから不思議。

ノビル味噌…春先に伸びたノビルを　刻んで味噌にまめして食べる時　季節感を満喫出来て独特な香りが　格別な食感を誘ってくれる。保存は効かないし味が変わるので　食べる時に鮮度の高いノビルが　一層効果がありそう。

イリコ味噌…鮮度の高いイリコを　適當の大きさに切って味噌に混ぜ合わせる。これもやはり麦飯が似合うが　長く置くと固くなるので　早めに召し上がれ。栄養価もあり食べすぎにご用心を。

ゴマ味噌…煎り胡麻をそのままでもよいが　少しつぶすと香りが強くなって　味の効果は十分に出る。少し砂糖を加えると味が高貴になるけれど　固まりが早いから早めに使うか　火を入れて練り瓶に入れて保存。これは風味が命だから　香りを逃がさぬ工夫を。

サンショウ味噌…コンニャクなどの湯立てした物の　味つけの添えに利用すれば　季節の香りが楽しめる。味噌に練りこんで少し酢を加えると　味が引き立つ。

ユズ味噌…最近はすくなくなつたが　ユズの皮をすり下ろして薬味にした味噌。和え物、煮物の添えに使うと季節感があり　素朴な香りと味が旅愁を醸し出してくれる。

味噌は古くから生活には欠かされん食品。使い方によち栄養価もある健康食品としち　欠かせない存在ち思います。

古. 明. 新. 歌



## 古い唄、新しい歌

民謡は唄じゃない…生活ん声じある こりゃー民謡研究家である  
竹内勉さんがん銘訓でんある。百姓が苦勞しながら働く いの  
ちきん中か出る声が これが民謡でんある。口説きによっち踊り  
歌う 生活ん中じの潤いは それが貧しい見かけた一異なる 心豊  
ん表現かん知れん。

### 『田植え唄』

揃うた 揃うた 植え手が揃うた  
苗う植えよう お困んために  
米は宝ん草じゃ 植ゆりゃ黄金ん花が咲く  
今年しゃ豊年 穂に穂が咲いち  
道の小草に米がなる。

腰ん痛さに こん田の長さ  
四月五月ん 日の長さ サンヤレ 日の長さ  
四月五月ん 日の長さ。

### 『田植え唄』

腰ん痛さに こん田の長さ  
四月 ヨイヨイ 五月の田の長さ  
紺の前かけ 松葉ん模様  
こんに まつとは ぜひもない。

わしに通うなら 裏から通え  
前は引き戸じ 音がする  
音がすんなら 大工さん雇うち  
音がせんごつ しちもらえ。



わしと お前は お倉ん米よ  
いつか 世に出ち ママとなる。

『ホーチョ ヌベヌベ』

ホーチョ ヌベヌベ 今夜の夜食  
チリツンテンシャン アラ ヨイシヨヨウイヨ  
早くぬばねば 夜があくる

盆の 十六日 おぼんかて 行ったら  
チリツンテンシャン アラ ヨイシヨヨイシヨ  
なすび切りかけ フローん煮染め。

『亥の子餅』 今市

大黒さんと言う人は 1で俵をふんばっち  
2でニッコリ笑って 3で杯さしおうち  
4で世の中よいように 5ついつでんご鼈尻に  
6つ無病息災じ 7つ何事ねーように  
8つ屋敷う買い広め 9つここにとどまっち  
10でとうとう 納まった ドッサリ。

『亥の子餅』 野津原

祝いましょう 祝いましょう 今夜の亥の子  
祝わん者は 鬼生め 蛇生め 角はえた 子生め  
エートナ エートナ  
も 一つ おまけに 祝いましょう。



『神楽ばやし』

アイと答えた 神楽ん里ん あれも年頃 目がかわいい。

神楽囃子に 更け行く夜は 濡れち見てえよ 出会い橋。

晴れん舞台が 無事すんだのん 苦労したしが あったかる。

行かにゃなるめー 待たせた夜るん 障子ん影絵が 恋しがる。

蛇きり済んだか 花火ん煙り 隠しちくれたに 肩を抱く。

『七瀬馬子唄』

夕日がまっ赤に 周りん景色ゅ染めち 影が長う写っちよる 四辻峠に曲想をわかしち 立ちすくんじよる民謡研究家。仕事ん加勢しちもろうた テマガイン節づきゅう 引き受けちここまじ来た。あんまり美しいに 気を取られちしもうたもんじゃき エンピツが チョイト止まったのん 無理ゃねー。

気骨んあるこんしが 引き受くりゃあん独特ん 曲が立ちどころに 美しい旋律になっちしまう 不思議な魔力じゃが そこまじはなかなか 漕いでん漕いでん進まん。じゃけんど引き受くる心境はやっぱ 人が人を好きになるからじゃろう。県内ん古い唄を調べち 回る そんな時いこんしに巡り会うた。

『いいで』 方言ぬゆう使うき 似合う顔が田舎ぢいさんじゃがいっぺん エレクトンに向くと いっぺんに人間が変わってちく。かしこまっち座った作詞んし。『そげー畏まると困るで』『ほんなご免』 とたんにシビレが全身につたわり コケチしもった。

作曲んKさんな大分国体ん マスゲームん曲に『関の鯛釣り唄』  
を取り入れ独特ん曲風じ世の中え 唄がひろまった。平成9年に  
78歳じこん世を去るまじ 民謡採集現職でんあった。こんしにS  
が出会ったのん P T Aん役員じ再三巡り会ったんが 人ん出会い  
じゃろう。なんかゆう気があうんが ここまじ発展しち野津原じゃ  
後先なかろう 作曲作品を残したな。

昭和天皇の崩御じ発表会が遅れ 平成2年の『ふるさとまつり』  
じ 紹介発表こん日にゃ『盲学校生徒』の 作詩曲した『恋の七瀬  
川』も合わせち行われた。

記念品を抱えち方言交じりん 挨拶が目を潤ませちよつたんが  
印象に残っちよる。それだけ自分の責任が果たせた そげな喜び  
痛感したんじゃろう。曲づくりん時あ 厳しい動きと声 ひとつ離る  
りゃ田舎んちいさんの風格。そげな姿体かるあげな曲が湧くんか  
それが民謡を愛する人間哲学かん知れん。

『秋葉越えれば諏訪の灯……』 ここに哀愁を感じち四辻峠ん  
夕日がここまじ書き立てた曲。軽快に人ん心う揺るごたる馬子が  
愛馬をいたわる素朴な仕種に 旅人の共感ぬ受くる人情にゃ 人  
ん気持ちが高貴にも豊かにも見ゆる。『鈴はあんた入れにゃな』  
流し目じさぐる心くばりにゃ もう素晴らしい唄になっちよる。

『秋葉越ゆれば火伏せん森に フロー煮えたか諏訪の灯じゃ』  
どこん百姓でん米はでじなもん じゃき夕食あ 決まっちダンゴジル  
独特ん 味噌仕立てん香りが食をそそり 心まじゃ貧しくならん心  
根が 煙りの中かる流れちよる。具が何でんいいだけに簡単に 早  
う出来る栄養満点のゆうげ。熱いのが旨い 温めち味がある 冷て  
えのん食感にゃ祖母の母の娘の 真心が染み通っちよる味。

じゃき

『ダンゴジル炊きゃ一人前』 牛見がウロウロしはじむるごたる。

肥後街道が久住かる今市に入る　ここゝ岡領今市ん宿じゃき肥後は　通行させちもらうこち一なる。石だたみんヒズメ響かせち荷を旅人う　運ぶ五助さんにゃ格好ん仕事場。自慢の聲は聞きほるるごたるし　世間話も博学じゃき客かる声もかかる。『アオよ勇めよ一宿場はそこじゃ　あれが街道ん石だたみ　七瀬んセセラギ　サラサラサラ　はい　はい　はい』

Kさんの黙りく一じ馬ん足音う真剣聞きよる。『いいな一　え一どげ一な』　皺が年輪じゃが　音屋にゃ竹んさやゆれも　あいの手になる。宿屋の女ごしが五助さんの　馬が帰る頃にゃダノミズしこしち待ちちよる。地主ん娘も五助さんがん　竹田みやげん菓子にゃ待ち遠しいち言う。

民謡収録じ加勢した日に荒木谷まじ来た。せせらぐ美しい水に手を入れ　側んカンカラン葉じすくうと　一気に飲み干した。顔見合わせち　『字曾に行こうか荒木に出ようか　四辻峠ん思案顔……』　ここじゃつたんな…発想が素人なりに浮かぶき　のめりく一だんもゆう解る。

秋葉を越えち七瀬川をあんげこんげ　渡っちくだと時ならん滝ん音。水しぶきが肌まじ濡らすごたる側じ　そん水音かる神楽拍子が聞こゆるごたる。白い指先じ　背中に何か書いた娘　言いたい気持ちが言葉にならんやるせなさ。『神楽囃子に更け行く夜は　濡れち見たいな鈴が滝……』。

水を寄せ集めち流れながら落ち葉が　苦勞する瀬も淵もある川面を　サラサラ心地ゆう流れち行く。徒渡り《カチワタリ》ん一の瀬渡しにゃ　五助さんが馬おタデヨッタ。『今日ははやじまいじゃきの』　言われん先言うと白い歯がこぼるる。『コネリゅう持ちきたで』『や一いつもすまんの一』『すまにゃ泳ぎな一』。あくのねえやりとりが　こんしの情愛なんじゃろう。徳人じゃな一ふんと。

トビシャクン花がふんと美しい。子供が口紅いゆうまねちそんな絞った汁う付けよるんぬ見ると 母じょうが鏡台ん前じしよるんか。ぼあさんがん頃にゃ『おはぐろ』ち 嫁に来ると歯を黒う染めよった。口う開けるとまっ黒い歯が出ち タマガッタナンチャネエ。種うつまむとパチッはじけち くるっと曲がったないが 種んやたーソコニソング散ちしもうた。

『肥後か府内か一の瀬渡りゃ お国訛がなつかしい』 ここまじ来た旅んしもしゃべる話しに 言葉が交差しちよるんが解る。府内まじ3里じゃが早めに宿でんとるか。ここにゃ『魚寿司』ん名物があった。川ん淵にゃ鮎がスイスイ泳ぐんが 水が美しいきゆう見ゆる。垣根に植えたボンジン花 地味じゃが一日花じゃが しとやかじ気風もある。朝露どまかかるといちべ艶っぽい。

※ トビシャク…鳳仙花。ボンジ…むくげ。ヨケ…側溝、水路。

肥後領地になっち宿場が出来ち 道幅がなんと6間そりい両側え水も流るるヨケもある。稲こぎしたあとん柶干しうしたんが こん道でんあったき 人ん行き来は多ゆうでん広い道にゃ 問題もなかったごたる。加藤清正もまゝこげな道うゆう 作ったもんじゃち時にゃ言いよったが やっぱ先んこつーチャント考えたんじゃろう。

恵良ん川端え出る所い帯んごつ長え 道がつながちよる。人がゆうじ『往還田』ち言う。肥後往還がのち道が出来たけん そんなま田になったもんじゃき 昔ん道ん有難え頃を忘れんごつ こげえ呼ぶんと。川端伝いに引こじったごつ続くもんじゃき 田植えするしが腰が痛えち言うけんど 牛使いんしは『だつかいはらく』ちこっちゃ喜ぶ。『二の瀬三の瀬無事瀬を渡り めぐす浮動に笠を脱ぐ』 こん瀬を越ゆりゃもう 七瀬川ん流れもゆるっとしちくる。

参勤交代ん頃にゃ『鶴崎まじゃもう坂がねーど』 そげな声が伝わり行列も静しずち 進んだんじゃあるめーか。





五助さんが荷運びしだしち かれこれ50年になるが 肥後から来たしが京から戻る時 決まっち五助さんかて一立ち寄る。貧乏暮らしんそれが何んじいいんか これがやっぱ人間の巡り合わせか 出合いち言うんか不思議なもんじゃ。人気もんでんあるが頓知も気だてもいいし優しい 心くぼりじゃもう泣く子も泣きやむんと。

曲をわかせちつけたKさんが 川原ん砂ん上に何か書いちよる。覗きくーだSが不思議な顔うした そこにゃ美人の裸姿があつた。二人は顔見合わせちニコリ ヤッパ別嬪の姿はいいんじゃろう。こげな田舎じ世話になった事う忘れんじ 責任ぬ果たす健気さに脱帽したS。素人が書いた五助イメージん 『七瀬馬子唄』 いつか誰かが歌っちくれたなら どんくれー嬉しいか。

『あん娘 年頃 姉さんかぶり いつか 覚えた 馬子唄を ハ七瀬のせせらぎ サラサラ サラサラ ほい ほい ほい』 砂ん上に寝そべった二人 口うそろえち歌う唄は みどりん森 七瀬川ん せせらぎに ゆう調和しちよるごたる。丸木橋を上手に渡っちゆくしの 心ん中まじ 染みくうじ行くごつ。

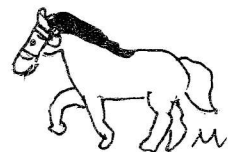
※ こん唄にゃ 歌詞が次々書き加えられち 77編あるそうな新しい時代に 古い『馬子唄』も けっくしゃいいんじゃねえ。

平成9年に生涯現職として 民謡をこよなく愛し 78歳で逝去された 故 加藤正人さんの ご冥福ご祈念申します。

『秋葉 越えれば 火伏せの森に

フロー煮えたか 諏訪の灯が

ハァ 七瀬のせせらぎ サラサラ サラサラ ほいほいほい』



『田植え唄』

わしと あんたは お倉の米よ  
いつか 世にでち ママとなる

わしん 想いは ネコ岳やまん  
朝ん 霧よりゃ まだ深い

わしと あんたは 羽織ん紐よ  
胸じ 辛苦を 結びあう

田植え 済んだら 塗らしち おくれ  
年に 一度ん お墨つけ

墨塗り 来たかち おちおち 出来ん  
田植え よこいが 待ちどおしい

顔に 鍋墨 つけたら あん娘  
末は 夫婦ん 祝い酒

わしに 通うなら 裏かる 通え  
前は 車戸 音がする



★ 田植えが済んだら 誰もかれもねえ 鍋墨うつけち 黒黒ち  
ゆう育つごつ 祈る 風習が 野津原地区内にあった。そんな  
頃ん水路幹線の所い 役場があっち 一目散にそき一行く  
もんじゃき 終わる頃ん役場じゃ おちおち仕事も 出来ん  
じゃった。けんど百姓ん 純粋な気持ちう 受け取る役場ん  
しも 気持ちゆう 墨つけううけ みんなじ 豊作祈ったち  
言う。

野津原ん農家じゃ古い生活の中じ こげな四季の営みがくり返されながら 物を作り出す楽しさ、喜び、嬉しさ、夢、豊かな気持ちなんかを 醸しだして 親から子に そして孫に伝えられ 受け継がれて来た。暮らしの中じ苦勞の時間に ふと口にする唄 それらは 唄であると共に 生活の声でんある。

今回ん紙面にゃ 田植え唄

ホーチョヌベヌベ

亥の子餅

神楽ばやし

馬子唄

初すり唄 なんかを 並べちみました。どんひとつにも 人の真心が 優しい情愛がこめられちよるが 人間の弱さも隠すこた一出来んごたる。じゃけんど 人間は言いたかりゃ言えるるが 使わるる牛馬なんか どげ一する。素直に言うこつ一聞いち 役立つぬ見ると 勝手んじょう言うな ちっと無視がゆうねえち 思うがどげ一じゃろうなえ。

とにかく出来たんじゃき すろうえ米う『初すり唄』でん唄うち

### 『初すり唄』

わしが想いは宇曾山やまん ほけえ木はねえ待つぱり。

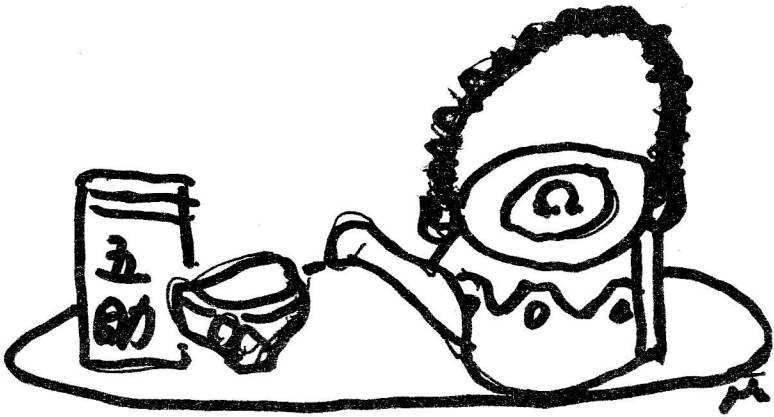
わしに通うなら裏かる通え 前は車戸じ音がする。

主と私は硯ん墨よ すればするはずこゆくなる。

臼は台でもつ中ごうで締まる 私ゃあんたん手じ締まる。



# 民話 俚歌



★ 農村地帯にゃ古うかる『手間がい』ち言う 美風があっち困る時ん助けあいがお互いんイノチキに大けな役割も 果たしよった。自分かたん家ん仕事じゃ 田普請、土手普請 屋根替えん時なんかにゃ 手がいるき 隣近所んしを頼むこち一なる。そきい日頃んつきあいが 助けあいと思わん力にもなる。

こりゅう『日頃往生』ち言う。自分がん都合んじょう言うち調子んかお一言いよると いっぺん信用がの一なるともう トリオーチクレン。雨あ降ろうごたるに屋根あぼる。ちょこつとツクロヤそれが出来るに 言うち断わらるりゃ他んしも 手も口も出さんき『お手上ぎ』 なっちしまう。

明日『道つくりゆするき出ちよくれ』 肝いりがフレち回るともう務めちよかにゃ 困る時い加勢しちもらいださん。『いで普請』ぬしゅうえ…『あっこんしは忙しいじゃね一』 誰かが気がち一ち口う挟むと 『何事かあるんかえ』 『お客ごつよだちちよるごたるで』『ふんとえ ほんな一日のぼそうか』になる。

お互いが気持ちゆう『つきあう』こたあ お互いん為でんあるきあんまり自分勝手じゃ 世間な通らんもんじゃし そりゅう一又皆んなも無理は言わんもんじゃ。『ウロイヨコイするかな』 区長が来ち年寄りに聞きよる。上手もんじゃち思う 聞いち決めたんなら困るしにでん 言い訳が立つ。

『ウロイヨコイじゃき 餅うて一たで』 手盆に乗せち持ち来たな カンカラん匂いがまだしよる。殺菌力があるち昔かる使うこれも生活ん知恵。『うまかろうごたるな一』『どげ一か知らんに』ちょこつと遠慮しち渡すと 『いつもすまんえ』 そんひと言がどんくれえ人ん心を大事にした言葉か。



『苦役』ちゅうんがある。クヤク…大体自分を犠牲にしち尽くすんが 主な内容じゃが時と場合じゃ 『貧なもんの入湯』ち言う嬉しい時じゃつちあった。日頃ん仕事に比べち思わん楽な仕事ん時 『こりゃーよかった出ち』 おまけに帰りん土産まじつきゃもう 『おかわりおくれ』ちも言いとうなる。

苦役…下達が多いようじゃが 公共ん仕事ん『道普請、いで普請、奉仕活動、火災後ん灰寄せ、なんか地区じある 順番の奉仕作業が入る。回り苦役なんかは地区ん 人たちが順番に手を出すが 軽い仕事、能力う使う仕事、特技ん必要な仕事なんかも。おおむね上かる言われちする部類が これに当てはまる。

公役…報酬ん約束がつく事が多い仕事 招集礼状をはいたち配達する。役所の一般連絡書類を配達する『状持ち』、区長かる区長に連絡をする仕事んし、部落ん役職〈現在の地区ん役職…報酬がつく人たちで 無報酬なら苦役〉、肝いり〈報酬がつかん時は苦役〉。主に住民が生活するうえから 行政としち必要な仕事。

※ かつては身分の高えしが 低いしに指図しち仕事うさするそげな意味が含まれちよつた。がこれも生活する社会ん納得出来る範囲の仕事でん あったんかも知れん。能力や体力うお互いが出しあい 生かした協力体制が 生活する上でんでえじじゃかるでんある。

今じゆう『ボランティア活動』は 当時の無理押しん形かる 互いに納得しち自主的ん 社会活動に姿を変えた生活倫理でんある。じゃき今じゃ拒む事も出来るし 都合んいい日に交替するなんか 人権、差別、薄謝、接待なんかが入ると微妙な感情も出ちくるきそん 兼ね合いん難しさもあるごたる。

口役…司会者、仲立ち、講演、応援演説 これらは現在の新語じ

昔は で一ぶん重宝がられよった。

司会者…ゆう言う『しゃべり上手』んし 世話好き面倒見がゆう  
じ 何でん物好きに世話するき 相談ごつ一でんもち込  
むき 勉強もしち博学にんなる。なんか行事がありゃも  
う『シャシヤリデチ』ふんと 場をもりあげち賑やこっ  
しちしまう。そり一何でん知っちよるもんじゃき 聞く  
と頓知ゆう答えも帰る、じゃきそれが嘘でん おかしゅ  
ね一き不思議。嘘も方便た一こんこつじゃろうな。

仲立ち…べたほめん仲うど口。それも使いようじなからにゃ 困  
るそん頃ん世情。旨い具合に結びつくりゃもう 仲良し  
が出来あがる。これ又好きなしがやるものじゃき 嫌応  
なしに話に乗せられち まあケックシャヨカッタ。こち  
なる。中にゃ『しもうた』ち 後ん祭りなつたしもある  
が それでん二世んちぎりち言うんか。

講演…頼まれち話しゅする内にゃ いつか上手になつちしまう  
しもある。同じこつ一繰り返しちゃ話すんが だんだん  
上手になつちゆう『ダンダンユウナル ホッケン太鼓』  
た こん事じゃろう。話上手に聞き上手が揃ゃもう 場  
は盛り上がり人ん気持ちゅ 誘い回しちしまう。

応援演説…似たようなんが しゃしやり出ちしゃべる 応援演説  
がある。人ん話しゅう横かる とっち自分がんもんにし  
ちしまうし。本人がん話しゃソコノケ いつんなかめえ  
か話しゃとんでんね一方向に いっちしもうた。こげな  
んぬ引っくるめち…口役ち言いよった。

まあいつん世でん口さかしいな 得したり反対に損したりもする  
が 遠慮ひもじい伊達寒いち言う事もある。

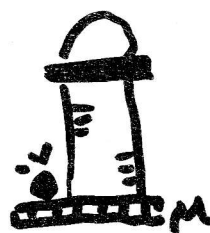
区役…地域ん世話をするしわ 選ばれたり輪番もあったりする。大体まあまあ部落んしん目じ 頼んだりする場合が多いき 報酬もある場合が多いが 名誉職じ過ごすしもある。区長じあったり代理区長じあったり 大けな部落になりゃ会計もちーちよる。現在ん自地区制度ん元じゃが相互扶助ん全身でんある。

区長が役所ん事務的な連絡ん 末端組織でんあるき そん届けやら手続きもしちよつた。時にゃ相談事やら仲立ちもしたり 夏ん大掃除ん検査にゃ 駐在巡査と同行しち手抜きしたり せんしにゃ『やり直し』も させよつた。それぐれーん見識もあり 責任者でんあつた。

★ 参勤交代時代ん苦役ち言うと 強制的に出る事が多いき 早う駆けつけた方が得をする事も多い。野野台じ『のろしが上がる』と 行列う構成するき人数ががいといる。じゃき早う行っちなるたけなら 楽な道具を持つ仕事ん方が皆んないもんじゃき 競争んごたったち言う。

肥後領地んいよいよ鶴崎い出る 最後の野津原宿場かるん行列あ 決められた数が整えらるるき 道具役回りも多いかる 仕事によっちゃ苦勞する事も多かつた。じゃきなるたけ楽なお供は ゆう解る心情でんある。到着すりゃ自分がん希望ん仕事う貰うこちーなる。

『なるたけなら楽な仕事う貰い 部落んしにさする』これも上に立つしん務めじあり 才覚んなすところじゃろう。





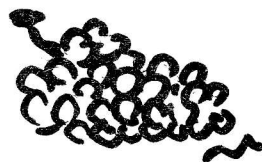
苦役じゃねえが日頃世話になる 地主さんかたん家ん田の草取り  
ゅう 加勢するこち一なった。真面目なしが念入りしよんに あら  
ましんしゃ泥水うまぜくり回しち 『もう済んだきいぬるで』ち  
イデン中え入っち足う洗いで一た。『早えな一しよわね一んか』  
『ゆう取ったきみな一水がにごっち』

さつさと帰った後も一人りゃ 汗水流しちえ一とギシン側まじ来  
た。そき一地主さんが見回りに。『すまん一まあ腰うのしなゝ』  
『あい もちっとじゃき 済んじかる』『一人んしは済んだごたる  
なゝ』 泥水が引くと草が残った田が見えて一た。苦笑いする地主  
は澄ましち 『ほんな ぼちぼちやっちくれなゝえ』

それかる程のう草取りが終わる時じゃつた。何か田の中えある。  
『何じゃろうか』…怪訝な顔じ側に行っち見ると そこにゃ樽に入  
った酒があっち 『ご苦労さん 地主ん名前』 タマガッチシモウ  
タ。でんちゃんの見ちよる そげな気持ちに真剣加勢した自分がん  
真心に自分も嬉しゅうなった。

済んだ汚れを洗い落とすと 酒たるをさげち地主さんかて寄り  
『これ田の中えあったんじゃが』ち 報告したら奥から出て来た  
地主 『あんたの素直さに神様がくれた ご褒美 持って帰って家  
族とゆっくり飲んじょくれ』 暑さの中で汗水流した苦労が ここ  
に実るんも人の当たり前の事をした 苦役でん報われる事んある。

★ 『クヤク』あれこれを書いたけど 今は消えちしもった事も  
あるが 人間の生活いのちきが続く限り 人と人が住むからに  
ゃ お互いが助け合う苦労もつきもん。そりゅう嫌うちよりゃ  
世の中は なりたちめ一ち思う。だれかが犠牲にもなる代わり  
助けち そげな事じゃつてあるもんな。



## 『16 羅漢さま』

羅漢さまん表情はさまざま顔 怒り顔、笑顔、心配顔、眠たそうな顔、上向き、下向き、斜め向き、細目、流し目、人間の現世ん気持ちゅ 一つ一つん仏像が人間に変わっち 問いかけちよるごたる。生きちよる限り煩惱が 忘れられん夢があるんが人間じゃき そん悩み煩惱ん解決に優しゅう手を 差し伸べちくるるんも仏かん 知れなん。

人間たぁそげーにも弱おじもろうじ 一人じゃ絶対に生きちよられん弱え いんにゃ生きられん動物でんある。寺の片隅じじっと見ち『何か困ちよるんじゃねえの』 そげな眼差しじ見らると 思わん側に寄ちちお願いしとうなる。じっと頭を撫ぜちまるじ親子んごつ 甘えてえ時にゃそれもいいんじゃねえ。

盆の15日んこつー聞き 日蓮が釈迦に『亡くなった母を救いてえ』ち 質問したら 『大勢ん僧侶にこの日供養せよ』ち諭された。自分事んじょうじゃのうじ 餓鬼ん世界じ苦しむみんなを救う事じ 母親も救わるる。自分さえよけりゅいいち言う 了見は通用せんもの。それが人間世界ん常道でんあるとも。

柱松に灯こめち盆の送り火うする。皆んながするんが賑やかでんあるが ほんなそれも出来んしじゃつてある。これも時ん流れじ時にゃ出来てん また出来ん事態じゃつち あるんが世の中。じゃき常識んある人たちん束ねは 皆んなじ作ち皆んなじ送る灯…これが柱松ん真髓でんあるんじゃなかろうか。そげな風習を大事にするなァ 素晴らしい事でんある。

暑かった夜も更けち涼しい風に 浴衣んそげなびかせた子供たち。意味は解らんでん見よう見真似じ 今年も年寄りたち習った『柱松』が 広場に出来たもんじゃき 里んしたちゃもう 勢揃いしち送り火が盆の風情醸しち……。

人間の弱さ…小さい蚊にでん

大けな胴体っしちよつてん あんこんめ一蚊にも悩まさるる。そんくれえ弱え動物じゃに威張り 強がりっ言うちみたがる。せせろしかろうと構わんしも 時にゃおるけんどやっば 刺されち痒いなもう話しならん。そこらへんぬ叩き回えち あげくん果てにゃ家内んしも 飛ばつちりがいく。

葬式んユコウをするき立会うちくんなあ。昔かるん決まりじ家内以外んしが どうしてん立ち合うこち一なच्चよる。そりゃ事件とか事故じ死んだんじゃね一確認。左ひしゃくじ水に湯を入れたぬかけち洗うんぬ『ユコウ』ち言う。 木綿の着物に着せ替えち左前にしち 立て結びにする。

ムゲノナギー…本当にかわいそうな。  
セツカロウ……さぞ切ないことでしょう。  
モウシユウモネーコチ…申し上げようもない事で。  
ネーチコトベナラン…泣いているので言葉にならない。  
ナミドナゲーチ…涙を流して。



泣き場面になると 言葉ん使いようもむつかしいもんじ 大体は低い言葉で肝心な分をちっと言うと あとは濁した言葉じ整うもん。なんち言うてんそん家んしにすりゃ 突然の出来事じゃき慌てもする。そこじ組み内んしが気くばりゅうしち 加勢しちりゃふんと助かり 恥もかかんじすむ。

汚れた手を洗うたよかったが 慌てち手ぬぐいを忘れた。あゝもうち思うたが 何んぼなんでん忘れたなんかじゃ 品が悪いきちよいと話しゅ繋いだら 乾いちしもった。風もあつたんじゃろうが 按摩と風は10時かるち昔かる言う。★ 針灸治療する人は夜更け10時頃が声がかかるち言う。明日も手を掛けん日に来る。

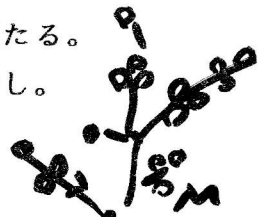
## 『毘沙門まつりのケンチン汁』

恵良の幹線かるはいった所い 茶畑が見事い花をつけちよる。香りふくよかじ白い花がなんとん言えん。早うかる水があっち田んぼが ケックシャ多かったき この辺にゃ家もガイトあった。そげな所い巡り合わせか『毘沙門さま』が ござちよる。元々は愛宕城《鷲が城と言いよった》ん 主護神じゃつたが戦火に焼けおてた城ん跡かる皆んなが暮らしちよる 中恵良ん田んぼ脇い移された。

それかるまた 西福寺ん山門脇い移されち 文政7年《1824年》に 今ん場所に祀られた。それかるは百姓取り入れかるん 節目でんある12月3日 当番が集まっち参拝するしに『ケンチン汁なんか』を 接待しち 『厄よけ、火伏せ、五穀豊饒』を 願うたそうな。財宝、招福、子宝、戦勝 なんかにも ご利益がある。

★ ケンチン汁…加藤清正ん生まれた美濃ん国ん味 大元は中国かるん修行僧が食生活から 体験した料理ん方法じ精進料理でんある。地元じ取れた野菜 ダイコン、ニンジン、サトイモ、シイタケ、トウフ、アブラゲ、レンコン こげなんが入った汁物。加藤清正親子は約25年前後の領主じゃつたが細川領主になった後でん 清正ん情愛に感化されちよつたんか 今もっち美濃方式ち言う。今市い行くと交替した細川ん生まれた若狭方式とか言うき 人ん気持ちはいつまでん心に染みつくもんでんあるごたる。

手近ん材料じ栄養価もあったき これかる米すり、小作米納め、正月《旧暦の時代》 まじの体力づくりん足しになったかん。人間の弱さがいつも神に仏に 頼るがこれも考えようじゃ お互い様でんあるんじゃろう。ここら一帯が中恵良とん言いよったき そげな優しい人間の祭りがあってん 不思議じゃねえごたる。今も地区んしたちが継承しちよるんは 麗しい話し。



七瀬川もここまじくるとユルット流るる。淵があったり瀬があつたりしち 恵良は米もゆう出来ち 村が出来てん不思議でんねえ。

新開に渡るにゃ『二の瀬』を 大水ん後にゃチット下がっち ワベットかる山際え出らるる。じゃけんどアブネー崖と川とん 脇じゃきゆう馬が川にオテクーダもんじゃ。じゃき供養塔も立てられた。

『二の瀬 三の瀬 無事瀬を渡り

めぐす 浮動に 笠を脱ぐ』 …七瀬馬子歌かる…

参勤交代ん頃にゃ雨も多ゆうじな 水かさも増しよったが板橋うすぐかけち 渡っちもらいよったが 人数が多いもんじゃき 下級ん御供は マクリアゲチ川を素足じ渡る。※ これを徒渡り《カチワタリ》ち言う。現在ん東京にお徒町と言う場所があるが こはそげな御供しん宿場があつたそうな。

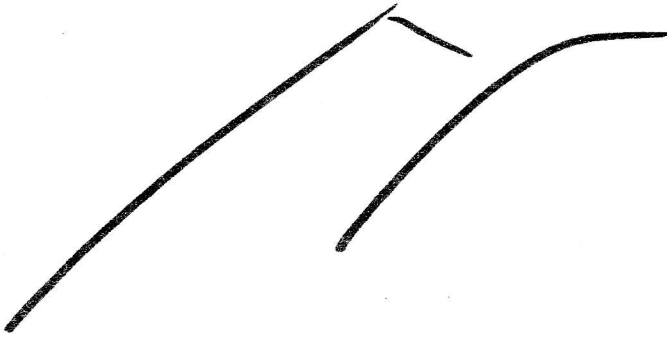
川お隔てた北にゃ平野村があつた。ここにゃ祇園神社があつち定期的に 野津原村ん古市に 権現にあつた白山権現宮とが 出会うち市がたつちよつち言う。昔は物物交換かる始まつたき 庄内やら 大野ん方かる行き来したち言う。そげな名残りん土地じゃつたき 近世になつちかるも『清正公まつり』が 始まるとそれまじ気持ちん中 心ん隅じじしちよつたんが 燃えで一たごたる。

『肥後か 府内か 一の瀬 渡りゃ

お国 なまれ訛が 懐かしい』 …七瀬馬子歌かる…

昔ん赤坂川が江戸期に入つち 七つん瀬を渡るきい『七瀬川』になつた。平坦な比較的開けた野津原に着いたら 水が多い川に出会うち何べんも 川ん瀬を渡っち参勤交代は 続いたんでんある。人んするこた一考えちみりゃ 面白いやらオカシイヤラ 笑うてんよかろうかなえ。じゃがそこじ知恵も浮かんじ ゆうしたもんじゃ。

芍药一服



このへんじ一服するかなー……五助さんがん口癖がもう 集まったしかる先取りされよる。肥後街道ん馬子ん五助さんな 仕事ん合間にゃ馬がおる時ゝ休みじゃき 若えしまじが話しゅう聞こうどち来る。五助さんも賑やけーんが好かんでんねえ。そりい世話になる事うちゃんと心得てんおる。

『お前どう見たこたあるめえ』 勿体ぶっち話がはじまったんな芋洗いん水車。ちゅうてん大けな物つきん水車た違う。いでん流れ水利用した丸みが1尺ぐれんもん。『どきあんのな』『お前どうにゃ教えん 取り行きゃ困るきのう』 じっと見回した若いしたちはそげな 悪いこた一せんしのじょうじゃが。

『今な嘘ど お前どうは本当まこに いい人間のじょうじ俺も感心しちよる』『いいき 早う教えなあ』『恵良に行くとの いでん中じグルグル回りよる 何かち聞いたら芋う洗いよるんと』 里芋を中にさせくーじ2時間もすりゃ まっ白うなっち出ちきたぬ見ると 便利がいいのうち五助さんも感心したんと。

『オカクズ』たナシ言うか知るめーのう。襷のり出えち次ん話が待ち遠しい。遠う近う仕事に行くとき珍しい話に 出会うたり聞いたりするもんじゃき 博学でんあるに知恵と頓知もある。『知らんき話しなあ 聞いたこた一あるけんど そいた旨えんな』『ほらすぐ食い物んにつながらるのや』 皆が大声じ笑うた。

『大けな木引き鋸んこつーオガち言う』『ありゃ 大鋸じゃ悪いんな』『いんにゃ悪いこた一ねーけんどや 当たり前ん名前は覚えちよつたがいいき』『そりゃまあそうじゃな』『そんオガを引く時に出るんが…オカクズち言うんじゃ お前どうが作る柱松ん中え入るるどが あれあれ』 五助さんがん話にゃもう筋が通ちよる。

『てんしょむしょ難しいんかち思うた』『わきゃねえじゃろうが これから難しゅうなるんど しょわねえか』



『ヨカロウ』ちゅう返事にゃ アブネェコチーなる事んある。頼まれち物売りこられち 『いいなええ』に『ヨカロウ』じゃ 『いいですよ』『お願いします』か 反対に『いりません』『断りますき』ん どっちかになる。確認ぬせんじょつち後じ 持ちちこられち困る事もあるうな。

五助さんが途中ん宿じ『足袋』う持ちち来たしに 『ヨカロウ』ち返事じゅうしたら すぐ持ちち来た。『ヨカロウ』ん前い『マア』をつけちよきゃ 何ちゅこた一なかったに。そんしも『ヨカロウ』が 『いいですよ』に 聞こえたんじゃろう。同じ意味じトンデェコチーなったなんか もう『どうでんよかろっ』。

晩がちなっちアタダ忙しゅうなった。手が足らん 通りがかりんしが加勢するこたああるが。そん頃う目がけち仕事うするしもあるき 遠回りするしもあった。雨でん降りそうな時あなおさら むげねえとん思うが 『明日ち言う手のかけん日があんに なし人う当ていしち』ち ふんとのや 困ったコンニャクじゃ。

『いちごもねえ』ち思うた。ゆう人ん意見も聞いちょかにゃ まかり間違うと『あんしがゆう言いよったき』ち 飛ばっしりう食うこちなる。人ん口まじ借っち言いとほね一きな。世渡り上手たこんこつか サラた新しい事じゃけんど サラバカじゃちっと困るきなえ。

かたずいた…荷がおれたとん言う。肩ん荷をおろしち楽になる意味じゃけんど 1と1が二つになっち2がおりた数が増えた。数が増ゆる事じ喜くうじ楽しゅうなる 一人いのちきゃ食えんでん 二人いのちきゃ食えるるとん言う。数が人間の『いのちき』に うまいこと連れのうちよんのも めぐり合わせん人生かん。じゃき数字に強いしは生活上手…いのちきが旨いち言う。





※ 説明 ヘンジ…このあたりで。マジガ…までが。チュウテン…  
と言っても。イデン…水路の中。ドキアンノ…どこにある  
のですか。センシノジョウ…しない人ばかり。ヨルト…寄  
りまいから。サゼクター…全部あつめて入れる。イルルドガ…  
入れるでしょう。テンショムショ…真剣に取り組んで。ワキャ  
ネー…簡単ですよ。ショワネエ…大丈夫ですよ。

アブネコチー…大変危険な。ヨカロウチ…いいでしょうから。  
ナッチ…なつて。アタダ…急に。ムゲネー…かわいそうに。テ  
ノカケンヒ…まだ使っていない日。フントノヤ…そうですね。  
イチゴモネエ…たいしたものです。コチー…ことに。クチマジ  
カッチ…人にいろいろ言われる事はない。サラバカ…本当に低  
脳。カタズイタ…すんで終わって。イノチキ…生活生きる。チ  
ヨンノモ…いるのも。



手を洗うち気がちーたら 手拭いを忘れちしもうちよつた。仕方  
ねーき手をうっ振るちよいち 一時考えごつーしよつたら のや  
ゆうしたもんじゃ 手が乾いち来たもんじゃき 何ちゅこたーねえ  
手拭いなんか もう 持つちよらんでん心配もねえ。『ふんな顔う  
洗うちそんな時 手拭い忘れちよつたら どげえしゅうかなえ』 や  
『そんな時か ほんな顔ううっ振るなドゲーカ』 『目まいがすりゃ  
せんじゃろうか』 『そうじゃのう 蜻蛉が目を回しち落つると ム  
ゲネエノウ』 『ホラ 又トハズが始まったど』

『五助さん ちよいと頼みてえことがあっち来たんじゃが』 『そ  
うなまゝ掛けな』 そげ一言うと今まじ使いよつた鍬を 洗いで  
えた。ヒマ取らせんち思うたが 『やんな今 鍬洗わんでん話しゅ  
聞いちくるりゃち 思うたじゃろう 鍬はのう仕事に使わるるんな  
苦にならんが後じ錆ぶるんが苦になるち 言うんど』 『そうじ  
ゃな 忙しい時』 『もうヨコウきあがんな』。

五助さんの話しゃいつ聞いてん味がある。今市にいつとき煙草  
ん収納庫があった。建物ん窓ガラスに紙うウツタテチ 写生しよ  
る若えしがあつた。近所ん娘たちが珍しそうに 覗いち見ると笑  
顔じ答えたとか。そんな頃あ何う考えち書きよつたんか 解らんけ  
んどやんがち そんな能力が頭角伸ばしちの……誰かち 知りてえ  
か あん朝倉文夫さんじゃつたんど。



山岡鉄舟ん書いたもんが 家に大事にしちやるし  
かる見てち言われた。ふんとゆう書いちゃるけん  
どそれが本物んかなんかは 素人にゃ解らん。  
けんど本物ち思う心があるんなら それもいいん  
じゃねえ 大事にするなあいいことち思うが。

遊びかゝる帰る時い慌てち手拭いを落ちいた。娘が朝に目が覚め  
ち親父かる 怒らるりゃしめ一かち思うと こりゃ男としち品が  
悪いこちなる。『断りいかにゃ』 度胸を決めちそこん親に  
『ゆうべはちょいと遊びきたけんど 帰りい手拭いを忘れちゴメ  
ンな』『や お前がんか 忘れんごつせんと困りゃせんか そり  
してん今朝は早えのう』 頭さげち真剣断りう言うそん 健気ん  
気持ちにやっぱ親父も 胸があつ一なつたんじゃろう。

『やんな おれかたん娘が好きか』『……………』 『気がきかん  
けんど仲ゆうしちくり一の』『あい あい』 反対になんか励ま  
されたごたる気持ちじ 嬉しい気持ちが爆発するごたつた。影じ  
じつと聞いちょつた娘も 飛び上がるはず嬉しいんか アワテマ  
クッチ内緒に戻ると オカチャンに抱きち一ち うれし涙ぼろぼ  
ろ。『ドゲーシタンナ』 母じょうは知っちょつたが謎かけた。

五助さんな皆なをひとあたり見まわすと 『いい話じゃなあ俺  
にもそげな話がね一かのう』『ハリコメ そんうち一あるかんし  
れんど』 みんなが大声じ笑うた。賑やかえことじあのう。

※ 説明 チータラ…ついたら。シモウチョツタ…しまった。シヨ  
ッタラ…していたら。ユウシタモン…よくしたもので。  
フナナ…それなら。ドゲーシュウ…どうしょう。ムゲネコサレ…  
可愛いそうなことで。トハズ…冗談を。データ…していた。ヒマ  
…休みだから。ヤンナ…お前は。ヨコウ…休む。  
ウッタテチ…あてがって。ヨツタンカ…書いていたのか。ヤンガ  
チ…やがて。ケンド…けれども。シメーカチ…叱られるかもと。  
ユウベ…昨夜。ソリシテン…それにしても。ジャロウ…でしょう。  
ヤンナ…お前は。アワテマクッチ…慌ててしまって。オカチャ  
シ…母親。ドゲー…どうしたの。ハリコメ…精出して。

『も ちっとしめち』



五助さんが道中じ『も ちっとしめち』ち 言われたそうなの。  
『それじ どげーしたんな』『お前どうなら どげーする』で  
んいろいろあるんじゃねえ。馬ん荷物が落つるかんしれんき も  
ちっとしめにゃならん。寒い時にゃ障子じゅ閉めにゃ 風邪うひ  
くかん知れん。

紐はシャント締めにゃズリオツルかんしれん。折角ん楽しい時  
にゃ締めらるりゃ もう頂点に上りつむるかんしれん。俵はぐあ  
いゆうホズミう締むると 品もいいし格好もゆう見ゆる。とうふ  
も押しが足らんと軟すげち 食うのに箸がかからんじ『箸も銚子  
もかからん』ち 言う。人ん話に乗らんな異国者じゃが 人間は  
まあほどほどじ合わせるんが 得かんしれんなあ。

石垣とりが根占もじゃが 詰めこみんグリも程ゆうねーと 石  
が動き回っち途中じクズルルカン知れん。腹ごめはなんでんやっ  
ば いいもんがあっちこす出来もいいごたる。腹ぐり一なこいた  
困るが『いいグリャ』やっばいいのう。

◇ 格言

時と言葉は再び 呼び戻すことは出来ない。  
蓮は泥水に生育し 泥水に染まらない。  
大海より壮大なのは大空であり 大空より壮大なのは心である。  
美は滅びても 徳は滅びない。  
果断と根気は 人間最高の美德である。

◇ 昭和28年時代の郵便メモ《当時の数字です》

郵便切手のはじまり 英国で1840年。日本は1871年。  
郵便はがきの始まり オーストラリア、ハンガリーで1869年  
日本で1673年…明治6年。  
日本人の郵便利用度 年間…42, 3通。  
切手の種類 世界…約10万種。日本…620種。  
万国郵便連合発足 1874年 日本の加盟…1877年。

◇ 食品の『酸度』 『水分』



酸性食品 パン…5, 0。白米…9, 0。鯛…16, 0。  
酸度 牛乳…2, 4。牛肉…12, 0。  
食品水分 大根…94, 5。白菜…64, 2。牛乳…87, 3。  
かつおぶし…14, 3。食パン…37, 7。

※ この資料は昭和28年頃のもので、戦後景気がようやくよった。日本ではじめちスーパーが東京に。8頭身の伊東絹子アメリカジミスユニバース3位に入賞した。

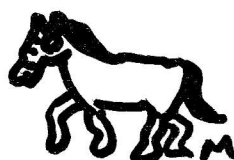
人生にゃ何でん楽しゅう 聞かせちくるる人い 出会う幸せ。巡りあう事じ どんくれえ 儲かるかん知れん。こん 儲けたな心ん豊けなることである。ゆう『美肌効果』ち 宣伝しよるが もともと白い体とチット黒い体はあるもん。そりゅう無理に白うしたてん 元々が黒いじゃきそげ一簡単にゃ 白うはなるめー。

手っとり早う白うなるにゃ マッサージじ血流をゆうする事じゃねえ。顔う自分のどんくれえかを知っち 気持ちゅ美白にするんが一番。ほら言うじゃねえな『女は愛敬ち』 愛敬んいいしはいつ見てん 美人に見ゆるけんどな。白塗したてん首筋がキワガチーチョルと こりゃちよいと悪いごたるが。

20万円ぬ全部5円硬貨じほしいち言う。4万枚になっち重さがなんと148キログラムと。何するんじゃろうか…『ヒトギマキ』まきに使う。いんにゃ 遍路さんの『お賽銭』に。まてよ『ご縁がありますように』ち 配るんかん知れん。違うんと消費税ん支払いに使う。それもいい工面じゃのう…まてよ ぼちぼちそん消費税もあがりゃせんか。

馬はなしあげ一顔が長うなったんじゃろうか…そりゃお前バケツヤラ駄桶が 長うじ深えき長うなったんと。食うに困るじゃろ。  
※ 人間の好みにあせ合わせち 動物も変わっちしもうた例は多いごたる。食う為にゃ無理も仕方ねえ従う 昔ん一頃にゃ 奴隷ち言うのがあっち ムゲナカッタド。売り買いする今でん聞くけんど。

五助さんもちよいとダツタンカ 用足しかあがり口んすぐ外にゃ ションペンタゴがある。よそかる来たしてんちよいと 尻うまくって用足しが出来たき 便利ち言や便利でんあつたごたる。



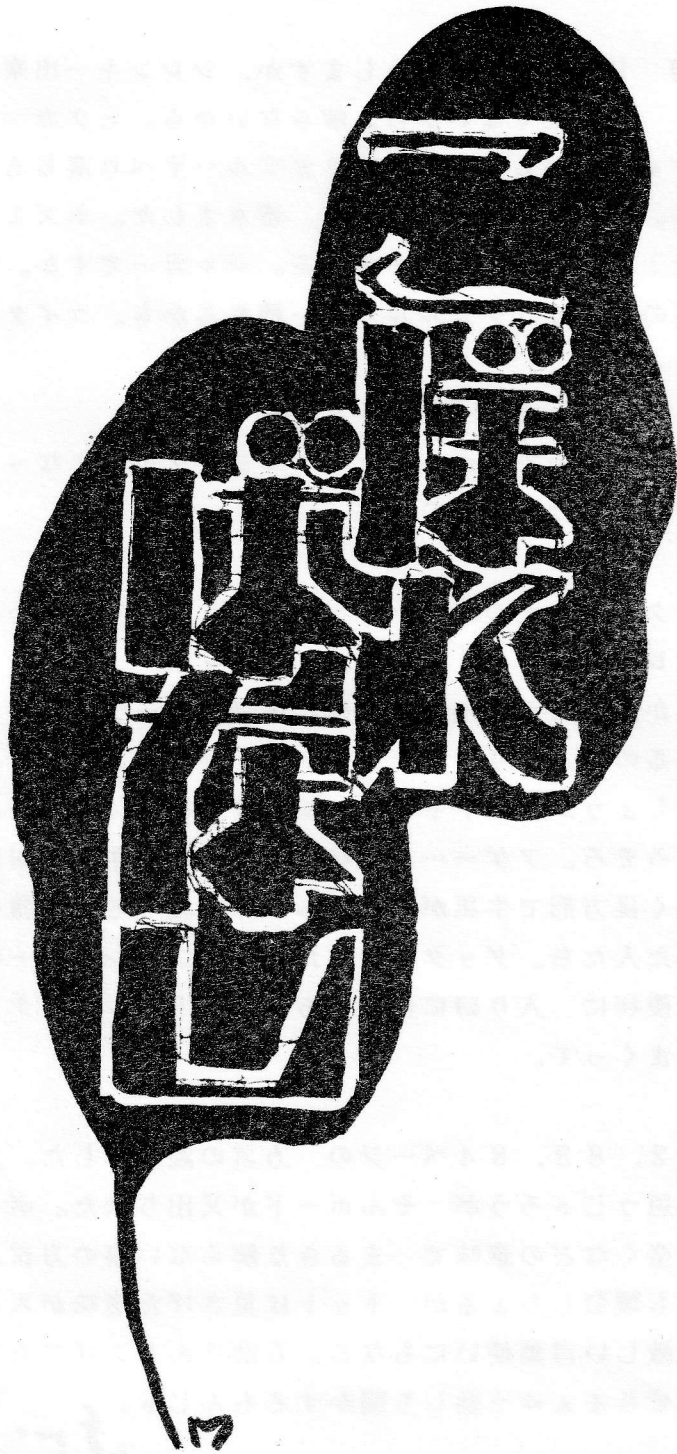
★ 説明 ドゲースル…どうしますか。シレンキ…出来ませんから。したくないから。解らないから。ヒクカン…引くかも。シャント…しっかり。ズリオツル…すべり落ちる、緩んで落ちる。ツムル…上がりついて、着きました。ホズミ…俵の締め仕上げに十文字に縄をかける。ジャガ…ですか。グリ…小さな石の固まり。クズルルカン…壊れるかも。コイター…これはしまった。

モンジ…ものですから。ユウナリヨッタ…よくなっています。ハジメチ…はじめての。

ドンクレー…どのくらい。ユウ…よく。ソリユ…それを。ドンクレーカ…どのくらいか。イウジャネーナ…言うじゃありませんか。イイシハ…よい人は。キワガチーチョル…きわがついているので。コリヤーチョイト…これではとても。ジャロウカ…でしょうか。ヒトギマキ…棟上げの祝いにまく餅。ポチポチ…そろそろ。アゲー…あんなに。ダオケ…牛馬の飼料いれの桶。長く長方形で牛馬が顔をつっこんで食べる。奴隷…人身売買された人たち。ダッタ…疲れた。ションベンタゴ…小便をするのに便利に 入り口に作ってある簡易トイレ。マクッチ…尻べらをまくって。

※ 82, 83, 84ページの 方言の説明でした。ボード解らんち思うじゃろうが そんなボードが又出ち来た。ボード…本当に 全くなどの意味で まるきり解らない事の方言。トット…これも類似しちよるが トットは見さげた意味が入るので 時にゃ激しい言葉使いにもなる。五助さんもこげな方言ぬ かてち混ぜちまゃゆう話しち聞かするもんじゃ。





こぼればなし 『小作人をコナシタ報い』

貧富んヒズカッタ昔は小作人ぬ 哀れみデージにした地主もあつたが そんな反面ヒジー仕打ちう受けた 小作人もおおかつた。それでん買うコター出来ん身の辛さ。じっと辛抱しちハリクーダ もんじゃつた。一生小作人じ水飲み百姓たユウ言うたもんじゃが 戦後農地開放によっち 小作人にも安い金じ買い取りがデケタ。

米んデケガワリーキ無理に頼んで 麦が出来たトキーオサムルキち エートコラエチモロウタ。そしち長雨もあつたが 麦もゆう出来ち田植えん合間に 麦う拵えち地主さんに納めた。朝早う涼しいうちち玄関前に来たら 用足しに出た地主さんな何思うたんか 『こげー早うかるコシャクナ』ち 玄関ぬばたっち閉めた。

朝飯も食わんじに来たに腹はヒモジイ。納めにゃ家にも帰れんきい ヒナテーマッチョツタが 汗は流るるわヒモジュウはなるは 頭ん上かる足ん先まじ汗まみれ。昼前になっちエート開いた頃にゃもう 暑いのとクタビレチシモウタモンジャキ 精魂尽き果てちしもうた。知らせう受けたヤウチやら近所ん 百姓たちがツージクルト 皆んなじ運びくうじエート受け取っちモロウタ。

戸板に乗せち帰つたがそんなまま 寝たきりん病人にナッチシモウタ。やんがち年月が流れち厳しさにも 耐え忍んじ家族も子供もふとり 小作米も無事納めらるるごつなつた。がです…地主ん家じゃ子供が生まるる 1年はずすりゃすぐ死ぬ事が続いち 3人もこれがくり返されたそうな。なしじゃろうかなえ。

そんなうち地主も大病になっちしもうた。よう言う人う呪えば穴2つつかち。相手を追い詰めち勝ったち喜ぶと そんな敵が自分も追いつめちよる例え。『人をあんまりコナシヨッタ』かるか 人ん噂は広まっち『トドンツマリヤ殺したんかん知れん』ちまじ 人ん口にゃ戸はたてられん。



困り果てち『錢は何んぼでん出すき助けちもらいてえ』とうとう頭にくるまじいなっち 家族が祈祷所に駆けくうだ。『実はこうこうじ不幸が続くが 何か障りがあるんじゃあるめえか』 祈祷師はすぐにゃ返事か出来んごつ 身震いしちうつ伏しちしもったとか。『何の因縁か知らんが米を真剣作りよるしを なしここまじコナシタンデスカ』『…………』『アンマリニモ気の毒な』『…………』それでん相手は 土地を貸しちくれちイノチキュウ サセチモライヨルキ スマンチイツモ思っちょる。

『そげなしの優しい気持ちゅう 踏みにじったばかりか ムコタラシュウ 攻め立てち暑い所い 待たせたんじゃろう』『あん暑さがこん間に受けちょる天罰じゃ』『…………』『まあこれからも続くハズジャツタが 気がち一たき 今すぐ断り謝りに行きゃ 病気もゆうなるかん知れん』。

相手ん小作人はそれかるは 日増しにゆうなっち元気を取り戻した。が地主はまだまだそれどころじゃねえ 苦難の日々がつづきよったが 薄紙をヘグゴツ チツトズツ ゆうなっち行くんが解るまじなっち。『あん家にとにかくスマンジャツタち 断りう続けち 10日はずした時 小作人の家かる見舞いが届いた。

地主ん好きな山芋がコモツツミに入っちょる。『食べてもらいてえち』 大きゅうなっち子供がさしでた見舞いに 平謝りん地主は『勿体ないスマンジャツタこんとおり』 『手をあげちょくれ』 ひざまづいち両手をにぎりおうち 『あん日があったきウツドウも頑張れれた』 流れた涙が地主ん手を濡らしち 地主も後悔しち見舞いに行ったそうな。

お互いが土地を借りたり借ったりしち 米が出来るもん。貧乏もブゲンシャモ土地が米がありゃこす お互いんイノチキも出来るもん。それかるは元気になっちみんな 仲よくなったそうな。いろいろ大事じゃつたな間違いねーけんど。

『いっぺん食べちみてえ』

『いっぺん食べちみてえけんど』『食わせてんいいで』『折角食ぶるんなら晩に ゆっくり湯にどま入っちかる…』『……』『落ちていち食べなゝ そりゃまた一割味が違うで』 あんまり大けな声じ言うと みんなが欲しがるかん知れんで。『ほんなあしたん晩などげーな』 言われち嬉しいやら恥ずかしいやら娘ん気持ち。

『大けなんがうめーち言うが 好きじゃなあオマエモ』『こんめえよりゃいいこと』『こんめでんウメンガあるんで 手ころなんは親指と人差し指じ握るぐれーかな』『そん先うグルット剥いて』『白いんな』『それが影じゃに谷間じゃに黒いんで』『中まじ黒いな周りが暗いきじゃろうか』

『皮を剥くともうぬべぬべしよっち 何か妙な気持ちなんのも弾んじよるきじゃろう』『そんまま食うてん変わった味が するき好きになしゃそんまま口い押し込む』 頬ばっちしまうけんどそれが何とんいい。モモグリヨルト飛び出たりするき アワテマクッチ摘み込むそん手の早えこと。

オチョボ口でん入るなゝ滑りこむきか ズルズルしたもんなそこらじゅうまじ 汚さんごつせんとのおや。食うないいけんどアトグチうユウセニヤ人かる羨ましがらるるき。『コソット食うな若え娘んするこつか知れんのう』 ちっと背に苔でん生ゆりゃもう遠慮も会釈もねえごつなるき。

『いいのが見つかったちよるな』『あつたど お前好みん太さじゃきやっぱ トロロがいいじゃろうのう』『それで麦飯う抱えち来たき 皆んなじ食おうえ』『持ちこんでん俺かたも麦飯じゃつたに』『飯ぐれーは持ちこんとすまんわな』『すまにゃ泳げ 下かる見るき』『またチュウカンぬ言う』 トトロ飯はうまかろうのう。

※ 説明 ヒズカッタ…疲れた。デージ…大切に。ヒジー…疲労。

コター…事は。ハイクーダ…入っていった。モンジャツタ…ものでした。ミズノミ…水だけでもしばらくは生きられる。トキーオサムル…決まった時期に納める。エートコラエチ…やっとの思いで我慢して。コシャクナ…生意気な。ヒナテー…太陽の下で。ヒモジー…空腹食べたくて。モンジャキ…ものですから。ツージクル…慌てて急いで来る。えーとエート…やっど。ホズリャ…しばらくすると。コナシヨッタ…いじめていた。トドンツマリ…結局は終わりは。サセチモライヨル…使わせてもらっているから。ムゴトラシイ…あまりにもひどい。ヘグゴツ…取り除くように。ウットドー…私たちも。ブゲンシャモ…物持ちの人たちも。

ドモ…みんなも。オオケナ…大きな。ドゲーナ…どうですか。オオケナシガ…大きなものが。コンメヨリャ…ちいさいよりも。テゴロナンハ…ちょうどよいくらいは。グルット…まわりを。ヌベヌベシ Chol…ぬるぬるしている。ホホバツテ…口いっぱい。モモグリヨル…揉んで揉み回して。アワテマクッチ…慌てまわって。オチョボグチ…小さい口。ズルズル…粘りこくて滑る。ソコラジュウマジ…そこに一面に。ノヤ…だろうと同意を促す。アトグチュ…食べた後の口直し。コソット…内緒で。コケデンハユリャ…年季がたって厚かましい。ジャツタニ…でしたのに。チュウカン…縦断がすぎる多少色気も。

### 『千巻心経』

昔しゃゆう時時に無病息災う念じち 皆んなじお経をあげよった。みんながゆうしちよる『千巻心経』じ 子供でん器用な子はいつんなかめ一か 覚えち皆んなかたん仲間え入る。わりに暇ん日を使うち集まると 茶よよばれち喉う潤す。



千巻心経を唱ゆる子供ん心ん中にゃ お経そんものん意味あ解らんじゃろうが 一緒に唱ゅうちする心ん持ちかた そん裏にゃ食べもぬう貰う喜びも存在しちよる。ご褒美があるかん知れん。そげな素朴ん欲望もあるじゃろうが それ以前の一緒にすわっち唱ゆる 仏様ん前ん境地は純粹いん気持ちに なつちよるんじゃあるめ一か。

満たす気持ちと前に進む気持ち 子供心にもそれがあるとすりゃ唱ゆる 心経にも意義があるじゃろう。一人は子供でん一人じゃき唱えた数かる計算すりゃ 1んかずん重みは大人と同じでんある。10人が100遍じ千巻になるき 中じヨコイ時間ぬ挟そうじでん片昼あかかる。子供ん力もたいしたもんじゃ。

色即是空…が出ちくる心経は すべてが空じあるち説く。人間の社会じゃそれが一番いい 生き方かん知れんが欲が出ると オシゲモノウそりゃ崩れちしまう。欲の張りやいこが惨めな戦争も起こし 貧乏人も増えちしまう。そげな繰り返しが続くと あん昔ん物がノーデン何か楽しかった頃が ナツカシュウジタマラン。

心経を唱えち茶を人並み飲みよるが これから先んこつう考えちおるんじゃろうか。先んこた一先ん風が吹く これも理屈じゃがセメテこん子供たちが大人になった頃は もちっと皆んなが心が豊かになりゃ いい世の中えなるんじゃがなあ。仏様も苦笑いしちよるかん知れん。

『さあ あと200巻で 始めゅうかな』 年寄りが声うかくると 『ちょいと待って シーゴ行っちくる』 あどけない女の子が半纏ぬ ビラビラさせち外に出た。寒い風がゴーチ吹き荒れちよるが もうあとちとっとうじ正月。あん娘たちも親は貧しゅうでん 暮れにゃささやかでん 『お歳暮』 貰うことじゃろうな 夢がふらんじ純粹な心が美しい。心経唱える座敷はまた元のお経に移る。

※ 91Pん説明

ナッチョルンジャアルメーカ…そうではないでしょうか。アル  
ジャロウ…あるのでしょうか。ジャキ…ですから。1ンカズン…  
1の数の。ヨコイ…休み、休憩。挟ンデン…はさんでも。オシ  
ゲモネェ…物惜しみせずに。ヤイコ…お互いに。ノーデン…な  
くても。ナツカシュウジタマラン…懐かしくてもう嬉しい。シ  
ーコ…小便。アトチットージ…あと少しで。

★ キンピラン長さはゆう見りゃ 5センチぐれーち言う。そりゃ  
どうやら口ん幅と 関係があるごたる。ほんなオチョボグチん  
しなゝ みじけーかち言うとそうでんねえ。じゅやき鱈口んし  
でん やっぱ同じじゃねえ。

そりー洗っち土は落としな一え そこまじじ皮は剥かんほうが  
いんと。なんさま味ん出るな皮んほうち言うき。刻うじ水につ  
けよったのん せんほうがいいそうな。味が流れ出ちしまうき  
折角 腕じヨリュウカケチ作ったに勿体ねーこと。油をちっ  
と使うことじ味も 栄養価もひっぱりでーちくるるそうな。

※ 説明 ユウ…よく。グレーチぐらいと。ホンナ…それなら。ジ  
ャキ…ですから。同じジャネエ…同じと思います。ソリ  
ー…それに。落としナーエ…落としなさいよ。ソコマジジ…そ  
こまでで。イント…よいのです。ナンサマ…なにしろ。ツケヨ  
ッタノン…つけていたのも。センホウガ…しないほうが。ヒッ  
パリデーチ…引張だして。



トピックス 戦時中ん話かる

- ◇ 外来患者…働きもんの百姓がどげーしたんか 元気がねえごたる。久しぶりヨコータンか お医者ん中え入っち来た。『ありゃ働きもんがどげした…』『ちと何かちっと悪いごたるき』『へー珍しいのう 天気がグレニャイイガ』

葉草にゃ昔かるいろいろあっち 使いよった。生活ん知恵でん あったんじゃろう。そん頃ん家庭常備薬、消毒薬品。特効薬。

センブリ…健胃剤。ゲンノショウコ…下痢止め。

クチナシ実…解熱剤。キキョウ根…痰切り。キササゲ実…利尿剤。

注射器…アルコール。傷口…ヨードチンキ。野菜…サラシ粉。

食器…逆性石けん。便所…生石灰。

パス…結核。テラマイシン…赤痢。ペニシリン…肺炎。

プロミン…癩。コーチゾン…リウマチ。

- ◇ 脈拍…新生児=135。3才=100。8才=93。  
30才=72。80才=80。

『あんたぬ計っちみろうか』『どうしてん見つからんのじゃがどっかに ナオシウシノウタンカン知れん』『フナ婦っちゆうセンギュシチキナ』『ソゲエシュウカ ヒョイトスリヤ 俵おきでん セリクウジャルカン知れん』

- ※ 説明…ヨコータンカ…休んだのですか。ドゲシタ…どうしたの。グレニャ…変わらねば。ドッカニ…どこかに。ナオシウシノウタンカ…しまいこんで忘れてのか。フナ…それでは。センギュシチキナ…見つけておいで。ソゲーシュウカ…そうしましよ。ヒョイトスリヤ…もしかすれば。セリクウジャルカン…押し込んであるかも。

こげな話が飛びかいよったな 昭和28年前後じゃきカレコレ  
50年はず 昔んこち一なるごたる。戦争に負けち《今でん終戦  
ち言うが》 えーと復興が軌道にのったき みんなん生活もゆう  
なったが 戦争中はムゴトラシイもんじゃつた。男しはみな戦争  
に出ちしもうち 残ったな一女子し子供年寄りんじょう。

裸電球ん1つしかねえ家んなか 百姓でん米は供出しち麦か粉  
を テンゴユウ利用しち食う。それも食わるるきいいほうじ 中  
にゃトイモ、里いも、粟、きび、時にゃ麦ばかりん頃も。それ  
が米を作る百姓ん食いもんかち。ゆうしたもんじ不思議とサカシ  
ユウジ 親子三代が仲むつまじゅう いのちきしよったもんじ  
ゃ。ほほかぶり餅、石垣餅、火焼き餅ふんとうまかった。

時時防火訓練、竹やりん稽古。バケツリレー、子供やら学生は  
松根油取りするき 勉強なんかそこそこじゃつた。学校ん運動場  
はトイモとカボチャが植えられちよる。だんたん戦争が激しゅう  
なると 勉強もお宮やらお寺やらじ 分散授業になっちしもうた  
。先生も兵隊に取られたり工場に のこったしが授業ん加勢。

それでんゆうしたもん…籠に入れられた赤ちゃんな 風んそよ  
ぎ虫ん声が子守歌に育った。百姓ん忙しい時あもう それが当た  
まえん風景じゃつた。赤ちゃんも親ん忙しゅうじヒジメ ちゃ  
んと解っち薄目じ見ながら 『もうしょうがねえか』ち 諦めち  
よつたんか そげ一しちみりゃ過保護も考えもんじゃのう。

世の中は乱れるはず 優しい目、暖かけ一言葉、譲り合いん心  
なんかが とてん大事な事じゃろうな。あん時ん子がもうやん  
がち60になる。切なかつた時代も通り過ぐると 『貧乏しちよ  
つてん皆こて集まっち 温きいき楽しかつたごとも  
あるな。心が豊かじあつたからじゃろうな。人間  
な弱え動物じゃけんどこかい所もあるもん。



岩ん割れ目かる水が流れ出よる 側え行くとコロコロ鈴う鳴らすごたる 音がチョロチョロ湧きでちよる。ちょうど割れ目ん上に飛び出た岩をうまいぐあいによけち分かれち右左に流るる。側にあったカンカラん葉をムシリトッチ 汲むと笹水んごたる色が 一杯にひろがっち思わん口うサイデータ。

自然た一ゆうしたもんじ 故郷にゃコゲナフウニ人ん心う 癒しちくれち暑いのにヒジイノン 一遍に飛んじしまうき不思議。どこかるとげ一流れちきたんか 枯るることんね一水が喉う潤し 気持ちん中まじ和ませちもくるる。『すまんなゝおおきに』心ん中じそげ一言うと サット風も吹く肌になんとん言えん味。

※ アンゲシネ…あちらの方に。コンゲシネ…こちらの方に。ソンジョソコラ…あたり一面に。ツクレンコツ…仕方もない冗談を。シルメーケンド…知らないだろうが。テーゲーニャ…たいがいには。ポーズ…とうてい。イミッチョル…増えている。ホーカブリモチ…小麦粉の練ったのに甘藷芋を包んで蒸した餅。ウシンシタ…小麦粉ダンゴを延ばして砂糖まぶした餅。ヒヤキ…小麦粉を練って火で焼いた餅。イシガキモチ…甘藷の賽の目にきったものを小麦粉を練って混ぜ蒸した餅。ハナツマミダンゴ…米の粉をこねた団子を三角につまんでゆでたもの。ユウネブラント…よくなめない。アッチアラレン…そんなはずはない。

★ コボレオテタ方言をちっと 集めました説明がつくと 成程ち納得もするんじゃねえ。心ん中に仄かな物を感じるなゝあなたが 優しい心ん持ち主じゃからです。方言にゃそげなふうになんどのう 通い合うきい不思議じゃけんど じゃかるこす字がかけん時代でん 気持ちは通い合いよったんでしょう。次に『方言カルタ』を 並べち見ました。



★ 方言カルタ

い いまきゅうはぐっち 風う通す…腰巻を開いて風を通す。  
ろ 論かる広がる里ん味…しゃべりん中じ知恵が。  
は 裸んばらじゃ風邪うひく…裸は風邪にご要心。  
に ニガウリゃ粉練りがゆう似合う…夏の料理ん代表格。  
ほ ほぎゅう言うてん根は優しい…口は悪いが気だては。  
へ 下手も愛敬あくがねえ…下手なりの人間性。  
と 隣ん麦飯しゃうめごたる…有難さが解るもの。

ち ちょろっと酔うたらあふへね一ど…程々じんせいが。  
り 理屈言うけんどうええらしい…あくがない性格の人間。  
ぬ ぬりくりべったり壁うぬる…仕上がりゃともかく。  
る 留守番昼寝じゃ困んのう…当てにならない留守居番。  
お おかしゅうじかくすな年頃じゃ…そろそろ生えたか。

わ わんがな大けん立派じゃの…持ちものは素晴らしい。  
か 影じゃに黒いななしじゃろう…見せぶらかさんごつ。  
よ よしれんこた一せんがいい…変わったことはせんごつ。  
た 頼まれたんなしゃんとせにゃ…頼りにしているから。  
れ 蓮華ん中じ色あそび…あんまり日に見せるな。  
そ そんじよそこらにゃねえごたる…珍しい物かもね。

つ つまんじ大けな声だすな…たまがっても声を出すな。  
ね 寝たんなら後始末…寝た後は始末よくしないと。  
な 泣くはずいいなら又するか…味を覚えて食べたがる。  
ら 乱暴もんじゃが気はいいど…悪がねんわりにゃ人よし。  
む 無理やりしたんなら気をつきい…無理は悪かったのう。

う うめもんくうたら後腹が…じゃあき言うたろうが。  
い 痛とね一腹おさぐらるる…人ん尻まじゃ知らんから。

の 乗ったないが人が来た…どげーするか静かに。  
お おくまじ届いち喜くうだ…耳かき掃除は気をつけて。  
く 暗すみじゃぁに間違わん…旨いぐあいに来たもん。  
や やんがんあいた見事じゃのう…さすが村一番じゃのう。  
ま 負けとうのうでん2回もや…又するんかえ好きじゃなァ。

け けつまらんこたもうすんな…同じこたーもう飽いた。  
ふ ふげのうすりゃきらわるる…折角ん時嫌わるる。  
こ こんのん言うたき困りゃせん…ほどほどにせんと。  
え 遠慮はお前もしてえんか…心配すんなへりゃせん。  
て 手先がうまい味がいい…大した技法が満足させる。

あ あんげこんげちーちいく…どこまでもついて行く。  
さ させなァいいどち気があうのう…相思相愛かん知れん。  
き 嫌いじゃねーに話されん…意志表示がへたなんか。  
ゆ ゆるっとしたな貰い風呂…背中流しちほしかった。  
め 面倒しけんど手を入るる…恥ずかしながらん手の動き。  
み 見かけは悪いが味はいい…ほら言うじゃろう味の違い。  
し 尻べら見つむりゃほえちくる…若い勃起の凜々しさか。

え 遠慮すんな減りはせん…使わにゃ損じゃき。  
ひ ひみん面でんさじーのう…あれだけは早手回しじ。  
も もてんごつなつたか立ったまま…そげな事もある盛り。  
せ 急かすりゃ外にこぼるるき…外まで汚しちゃ様にならん。  
す すんだら始末しておいて…後かたづけが大事。



方言が入った『カルタ』は 心癒しと思って読んでください。方言が入る事でホンワカになるのも人間の気持ちの中に常に 何かを求めている証でしょう。だから一服する時間は 心の和みになれるのです。浄化、転換、さらに活動を。

## 『湯つけうどん』

久しぶりん旅人が道中じ知りおうた 家に一晚泊めちもらうこち  
いなった。何はのうでん土地ん人たちん お客う接待にゃ『湯つけ  
うどん』が よかろうちバタバタしこうしち 座敷に運うじ来た。  
涼しい風が吹き抜くる奥座敷 『何もねえけんど ゆっくり食べち  
くんなあ』『ござうさかけます』 客は大けなドンブリい 湯につ  
けたウドンぬ見ち 『なんと優しいおもてなし』ち 思った。

『おつゆにつけてんいいし こんままでんいいんで。あんた遠慮  
すりゃ悪いき 内緒におるき ゆっくりおあがちょくれ。用事ん  
ある時あいつでん オロージョクレな』 そんくれ一言うと内緒に  
さがった。こん家んしも精一杯ん接待じゃつた。が 所変わればん  
たとえじ お客は困ちしもった。

食べ道が解らんもんじゃき 思案なげくび 見回すと大けなドン  
ブリ なみなみと入った湯に ウドンがたっぷり入ちよる。そり  
いお碗と薬味んネギ、ゴマ。味つきしょうゆ。『碗にしょうゆが入  
ち 薬味まじゃ解ったが まあウドンぬ入れち よばりゅうか』  
そこまじゃオオカタ都合ゆう行ったんじゃが 湯の使い方が解らん  
。

ウドンぬ腹ひとつヨバレち 後あこん湯をどげーすんのか 聞く  
のんおかしいし ちと考えよったが ゴマあ入れち飲むんかん知れ  
ん。『こんゴマ けっくしゃウメーワ』 サッサツチちゴマあ入る  
ると お碗じ汲んじ湯を飲みでーた。『ソバツユたー違う味じゃ』  
一汗かいた後でんあっち なんとか無理しちそん 湯をおおかた飲  
うじしもった。

『あーこれじじっと横にセリカエーチモライテー』 心ろん中じ  
一人言。でんこげな優しい接待にゃもう やっぱ嬉しさもこみあぐ  
るもん。じっと横になろうちしたら 内緒からん足音がしち来た。

『おかわりゃどげーな』 慌てちコロリ起きあがると ぐっと腹お押さえち 『なにんかにん美味しいかったんで』『お変わりどげえな』『いやもう 大変よばれたき』 ここまじ言うとなんしそうになつたぬ えーと我慢した。座敷に入ち来たここんし タマガッチしもうたごたる。あれだけんもぬ一皆かたずけちよるき。

『ゆうおあがりじゃつた お難しゅうございました。『……』受け答えが解らんまま 頭だけゅ素直にさげた。『あん………みなぬーじしもうたんな』『ありゃ 飲むと悪かったんかな』『いえ…悪いこたーねーけんど じ どげな味じゃつたじゃろうか』『そりゃもう 蕎麦つゆたー違ふ 美味しかったんで』

二人は顔見合わせち 笑いたいような 笑われん気持ちゅじっとこらえちしもうた。

知らんこつー聞くなぁ恥じじゃねー 知つたふりする事ぁ時には『物知り』ち 思われたり反対に 『調子者』ちも思わるる。聞くなぁ『いっときん恥じ』かん知れんが そりゃ聞かれたしん学んある証でんあるき けっくしゃ喜くうじくるるかん。そしち聞いた事ぁ特別ん思いじ心に 残るもんでんある。

旅んしを見送つたここんしも 『悪かったな一教えちあげにゃ』ち 折角親切に泊めちあげたに 恥じゅかかせた上迷惑もかけたち 気をつけにゃならんこつー しみじみ解つち言う。人間の世界じゃ知らん事ぁ聞く それじ又一つ知り博学にもなるごたる。姿が見えんごつなつた西ん空にゃ 夕焼け雲がモクモクと 明日も天気がいいごたる。無事に旅を念じてーもんじゃ。



うどんにゃ細うでん長う結びつくち言う 事もあるもんじゃき あんしも元気に旅う続けち行くじゃろう。もう湯つけウドンの食い道は 勉強したき上手になつたじゃろう。



伝言板

野津原方言集の続編№9〈平成19年10月発行〉には 人気者の五助さんが登場する『五助街道物語』『故郷の味』『民話、伝承』『方言子供世界』『古い唄、新しい歌』『こぼればなし』『ちょいと いっぷく』 なんかを面白おかしく 散りばめての発行の予定です。限定100冊しかできないのは 収拾調査、編集印刷、製本 など全てが会員の余暇を利用した 手づくりだからです。ご了承いただきまして ご愛読くださる皆様がたに 厚くお礼を申し上げます。ご支援くださるご厚情に 心励まされて息の続く限り 発行を予定しています。

ご健勝な日々をご祈念申しています。

平成18年10月吉日

野津原方言調査会

調査収拾、編集、監修、印刷、製本

甲斐英行、小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ、佐藤源治。

野津原方言調査会…大分市大字高原 甲斐英行

097-589-2807

事務局…588-0092



